

租税教育の事例集

～租税教育の充実に向けて～



平成 27 年 4 月 発行

(令和 4 年 6 月 一部改訂)

租税教育推進関係省庁等協議会

〇はじめに

1 租税教育は、なぜ重要なのでしょうか

国民生活や経済社会と密接に関連する税は、私たちの暮らしや社会に欠かせない多様な公共サービスを提供する国や地方公共団体の活動の財源であり、国の様々な制度の中でも根幹的なものです。

憲法で国民の義務に掲げられているように、国民が教育を受け、勤労し、税を納め、持続可能な社会を作っていくことは、民主国家の維持・発展にとって欠かせないことであり、次代を担う児童・生徒等が、国の基本である税の役割や申告納税制度の意義、納税者の権利・義務を正しく理解し、国や社会の在り方を主体的に考えることは、民主国家の維持・発展にとって極めて重要なことであると考えられます。

また、教育基本法は、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」（第1条）と定めているとともに、教育の目標について、「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」（同法第2条1項3号）と定めています。社会や国を支える税の意義や役割を深く理解し、税を通して社会や国の在り方について考える租税教育は、正に教育基本法の理念に基づいた教育であると考えられます。

2 租税教育の充実に向けた取組

文部科学省、総務省、国税庁は、平成23年に租税教育推進関係省庁等協議会（いわゆる「中央租推協」）を発足させ、賛助会員である日本税理士会連合会の協力も得ながら、租税教育の推進に取り組んでいます。

全国各地においても、教育委員会など学校教育関係者、地方自治体、国税局・税務署、税に関係する民間団体の関係者の方々などから構成される租税教育推進協議会等を中心として、租税教室（出前授業）の開催や税の作文募集のみならず、例えば、職業体験施設における税務署の仕事や納税の体験、鉄道やバスに乗り税の関連施設を探す移動租税教室、教員を対象とした確定申告体験、税理士が母校で行う租税教室の開催など、様々な工夫を凝らした租税教育の取組が実施されています。

3 租税教育の事例集の活用について

平成27年4月、中央租推協では、教員等の意識啓発を図ることを目的とし、全国で行われている租税教育の優れた取組事例などを基に、監修者の先生方の御指導・御協力をいただき、事例集を作成しました。

その内容は、学習指導要領及び同解説の記述を踏まえたものとし、その構成は、①税の授業の経験が少ない方には創意工夫を生かした授業づくりに活用できる学習指導案を、②税の授業の経験が豊富な方には授業づくりのヒントとなるページ（素材やそのつかませ方を例示した教材化の視点）を、③更には発達の段階ごとの学習内容を一覧に整理した体系図を添付するなど、租税教育に関係する様々な立場の方に広く御活用いただけるつくりとしています。

租税は、社会との一つの接点であり、児童・生徒に社会と自分との関わりを具体的に理解させる観点から、社会科、公民科以外の時間にも取り扱うことが考えられます。この事例集を広く関係者の方々に周知・配布していただき、よりよい租税教育の授業づくりのため、関連する教科・時間などにおいても、是非、御活用いただきますようお願い申し上げます。

〇ご利用に当たっての留意点

- ・各事例の学習内容や指導方法は、税についての学習内容や方法等を限定したものではなく、また、税に関する理論等を定めたものでもありません。児童・生徒の実態等に応じて、創意工夫を生かして御活用願います。
- ・体系図は、租税教育の学習内容等を限定するものではなく、取り上げる順番も固定するものではありません。
- ・事例集に記載している「副教材」とは、各地域の租税教育推進協議会等が、地域の情報を取り入れながら工夫して作成している補助教材を指しますが、各事例の学習内容に全て対応しているものではありません。
- ・本事例集は、発行時点（平成27年4月）の学習指導要領等に基づき作成していますが、本文中の数値等については改訂時点における最新の数値となっています。

〇監修

事例集の作成に当たり、以下の方々に御指導、御協力を賜りました。

（敬称略、50音順。学校名・職名などは監修当時）

- ・和歌山大学准教授 岩野 清美
- ・埼玉県立川越初雁高等学校教諭 池田 美友貴
- ・横浜市立丸山台小学校教諭 大久保 房代
- ・東京都立国際高等学校教諭 宮崎 三喜男
- ・大阪市立蒲生中学校校長 吉信 勝之

目次

【小学校】

- 事例1 「わたしたちの願いを実現する政治」(社会保障) 3
➢ 地域の人々の願いを実現する税の役割を知り、視聴覚教材により税の必要性を考える授業例
- 事例2 「わたしたちの生活と政治の働き」(災害復旧の取組) 6
➢ 災害復旧の取組を調べ、地方公共団体の働きを支える税の役割の理解に重点を置いた授業例
- 事例3 「政治の働きを支える税」(地域の開発) 8
➢ 市民が納める税によって地方公共団体の活動が行われていることへの理解に重点を置いた授業例

【中学校】

- 事例1 「政府の働きを支える税の役割とその仕組み」 10
➢ 税の意義や役割、基本的な税の仕組みを学ぶことに重点を置いた授業例
- 事例2 「私たちの生活と税の役割を考える」 12
➢ 外国の事例を参考に、消防など公共サービスの費用を賄う税の役割を考える授業例
- 事例3 「公平な社会って何だ？」 14
➢ 税金を納めるシミュレーションを通して、グループワークにより公平な社会を考える授業例

【高等学校】

- 事例1 「主権者として、納税の意義を考える」 17
➢ 税の機能や意義を理解し、納税者としての意識を醸成することに重点を置いた授業例
(確定申告書の作成体験や税に関する仕事を紹介する指導計画を作成した例)
- 事例2 「公平な税制を考えてみよう」 20
➢ グループワークを行い、公平な税制について主体的に学ぶことに重点を置いた授業例
- 事例3 「主権者として、納税の在り方考える」 23
➢ 知識習得と他者との対話を通して、納税に関する考えを深めていく授業例
- 紹介 「税に関する高校生の作文」への応募とリンクした3つの指導方法 26
➢ 作文を書く前の3つの学習パターンを紹介 (租税教室、補助教材、ワークシートの活用)

【大学(教員養成大学)】

- 事例 「教育学部における租税教育研究」 28
➢ 大学講師、学生、税の専門家(税務職員や税理士)が協働して税の授業づくりを行う事例

【参考】

- 参考1 租税教育の体系図(発達の段階と領域、学習内容) 30
- 参考2 小学校の学習内容と教材化の視点の例 31
- 参考3 中学校の学習内容と教材化の視点の例 32
- 参考4 高等学校の学習内容と教材化の視点の例 34
(国税庁ホームページ「税の学習コーナー」の紹介)

【紹介】 発達の段階ごとに多く行われている授業や取組の例

- ・小学校(高学年)では、児童の関心を高めるためDVDなどを視聴し、「税が無かったらどうなるか」を自ら考えさせることにより、税の必要性などを理解する租税教室(出前授業)が多く行われています。なお、学習指導要領において、「地方公共団体や国の政治の働きは、社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などのいずれかを取り上げる」とされていることから、事例集ではこれらの3事例を掲載しています。
- ・中学校では、DVDを視聴し、税の必要性を理解するほか、グループ討議などを行い、日本の財政の現状や課題について考える授業などが多く行われています。
- ・高等学校では、公民科の授業以外にも、総合的な学習の時間を活用した租税教室や、キャリア教育の中で税に関する仕事を紹介するなどの取組が行われています。
- ・教員養成大学では、日本税理士会連合会の寄附講座開設により、租税教育をテーマとした教育研究が行われるなど新たな取組が始められており、近い将来に、教員となる学生による税の授業づくりなどが行われています。

【小学校】事例1 「わたしたちの願いを実現する政治」(社会保障)

ポイント➤ 地域の人々の願いを実現する税の役割を知り、視聴覚教材により税の必要性を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第6学年>社会科>(2)我が国の政治の働き>ア国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること

○単元の目標

- ・地方公共団体や国の政治の働きに関心を持ち、国民生活には政治の働きが反映していることを理解する。
- ・公共施設を見学したり、各種資料を活用したりして調べたことをまとめるとともに、人々の願いを実現する政治を進めるために税が大切な役割を果たしていることに気付く。
- ・税の役割に気付いた後に外部講師による租税教室(出前授業)を実施することにより、税に対する興味や関心を高め、身近な生活と税の関わりや税の必要性を理解する。

○指導計画(8時間・各1時間)



時	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準
1 子育て支援センターの見学	○利用者にインタビューし、幼い子供を持つ親の願いについて話し合う(親は、安心して子供を育てられる仕組みが欲しいという願いを持っていること)。	支援センターで行っている活動の様子やアンケートの結果から、利用者の願いについて考えさせる。	(関心・意欲・態度) 支援センター利用者の願いや活動の様子について関心を持って調べている。
2 子育て支援センターの活動	○支援センターを見学したり、所長の話や聞いて、どのような目的で、どのような活動が行われているのかを調べる(支援センターでは、幼い子供とその親のために、市民の意見を取り入れながら、様々な活動を行っていること)。	支援センターで行われている様々な活動の目的について考えさせる。	(知識・理解) 支援センターの活動が、市民の願いに基づいていることを理解している。
3 住みよいまちを目指して	○市役所や市議会を見学したり、市役所の人の話を聞いて、市役所などの働きを調べる(市役所などでは市民の願いを実現するために話し合いながら仕事を進めていること。市民の生活には市の政治の働きが反映していること)。	支援センターの活動が始められた経過について、市民の生活向上と安定を図ろうとする市役所などの働きを関連付けて調べさせる。	(思考・判断・表現) 私たちの願いを実現するための市の政治の働きについて考え、適切に表現している。
4 税の働きを調べる	○支援センターを建設したり、運営したりするための費用がどこから出ているのか、収集した資料を基に調べる(支援センターの建設や運営など、人々の願いを実現する仕事を進めるために税が重要な働きをしていること)。	支援センターにかかる費用を基に、税が大切な役割を果たしていることについて気付かせる。	(技能) 税が重要な役割を果たしていることについて、資料を活用して、必要な情報を集めて読み取っている。
5 税について考えよう <本時>	○外部講師による租税教室を通して前時で学んだ税への関心を高め、税が自分たちの生活と密接に関わっていることや税の必要性について理解する(消防活動やごみの収集など、税が自分たちの生活と深く関わっていること)。 ○税が無いとどうなるかまとめる。	視聴覚教材(DVD)を活用することで、税が自分たちの生活と密接に関わっていることや税の必要性などについて理解させる。	(知識・理解) 自分たちの生活と税の関わりについて理解している。
6 税の大切さを伝えよう	○税に関する絵はがきコンクールや税の標語等に向けての作品づくり等を通して、税の大切さについて考え表現する。	自分なりの表現方法で作成させる。	(思考・判断・表現) 税の大切さを絵や標語等で表現している。
7 国会、内閣、裁判所の働き(略)			
8 学習したことをまとめよう	○支援センターの働きや建設の経過を例にして、地方公共団体の政治の働きについて、市議会、市役所、住民、税金、選挙などの用語を入れて関係図にまとめる。	前時に学んだ国会(法律)や内閣・各省庁(補助金)も関連付けるようにする。	(知識・理解) 政治の働きと私たちの暮らしの関わりを具体的に理解している。

○本時の学習

1 本時の目標

自分たちの生活と税が密接に関わっていることを知り、税の必要性について理解する。

2 本時の展開(5/8時間)

	学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>自分たちの生活と税金の関わりを理解し、税金の必要性を考えよう。</p> <p>2 外部講師の紹介を聞く。</p>	<p>・外部講師を紹介する。</p>
展開	<p>3 外部講師の話聞き、税について関心を持つ。</p> <p>(1)知っている税金を発表する。 ※消費税、所得税、自動車税など。</p> <p>(2)世界の消費税について知る。→日本と欧州各国の消費税率など。 ※国により税率が違うことに驚いていた。</p> <p>(3)税金の種類(様々な税の集め方)を知る。</p> <p>日本には全部で何種類の税金があるでしょうか。⇒約 50 種類</p> <p>※税金の種類の多さに驚いていた。 ※税金はいっぱいあるけど必要なのかな。</p> <p>4 自分たちの生活と税との関わりを理解し、税の必要性を考える。</p> <p>(1)税金は必要か、必要でないかを発表する。 ※必要性について意見が分かれていた。</p> <p>(2) DVD を視聴し、自分たちの生活と税金の関わりを理解し、もし税金が無かったらどうなるかを考える。 ※税金の無い世界に驚いていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金が無いと困る(消防活動やごみの収集がされないなど)。 ・いろいろな所に税金が使われていることが分かった。 <p>(3)もし税金を納めない人がいたらどうなるかを考え、憲法に納税の義務があることを知る。</p> <p>(4)学校と税金の関わりを例に、身近な税金の使いみちを理解する。</p> <p>公立学校に通う児童一人当たりの年間教育費はいくらでしょうか。</p> <p>→約 93 万円(平成元年度)。この費用は、税金で賄われている。 →学費にしたら毎月約 8 万円を学校に支払わなければならない。 ※月謝にして一人当たり約 8 万円ということに驚いていた。</p> <p>(5)税とは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながより豊かで安全・安心な生活を送るための地方公共団体や国の働きに必要な費用は、みんなで分担する必要がある。 ・税金は、国民が社会の一員として暮らしていくための会費のようなもの(社会を支えるための会費)。 <p>(6)国の予算額を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが分担して納めている税金の使いみちは、選挙で選ばれたみんなの代表(国会議員)が話し合っ(国会で)決めている。 ・みんなが分担して納めている税金は、大事に使わなければならない。 ・1億円の量と重さを体感し、高額な金額に実感を持つ。 ※1億円の重さを体感し、集めた税金や国の予算の大きさ(重み)、お金の大切さを実感していた。 ※1億円は 10 kgもある。僕は 4億円と同じ位の重さだ。 ※国の予算は約 100兆円だからすごい重さだ。 	<p>☆国税庁 HP「税の学習コーナー(入門編)」、副教材 ☆国税庁 HP「税の学習コーナー(発展編)」、副教材</p> <p>☆国税庁 DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」(17分 06秒)</p>  <p>・教科書の裏表紙に「国民の税金により無償で支給」と書かれていることに気付かせる。</p> <p>☆副教材、1億円レプリカ</p>  <p>・重さや金額を身近なものや距離で例える。(27、29 ページを参照)</p>
まとめ	<p>5 税金はなぜ必要なのかについて分かったことを発表する。</p> <p>6 感想を発表する。 ※税金の大切さが分かった。</p>	<p>・学習内容を振り返り、まとめさせる。</p>

○評価規準

- 税金が自分たちの生活と密接に関わっていることや税金の必要性について考え、根拠を挙げて表現している。(思考・判断・表現)

○児童の活動の様子

- 税に関する絵はがきコンクールへの作品



- 租税教室実施後の日記から

12月10日(土) 天気 ☁

今日のテーマ「税について学んだこと」

私は最初、お金をはらうのなら税はいくらに思っていたけど、税がないと、信号機は動かないし、道路もわたるのはお金が必要ということが初めて分かりました。ビデオの中の世界が現実だったり本当に困るね。

十二月九日(金) 天気 ☀

今日のテーマ「税金について学んだこと」

わたしはなぜ税金の種類がたくさんあるのかが分かりませんでした。ですがDVDを見てよく分かりました。ぶつこの道路が有料になったり、信号が動けなくなったり、教科書にお金がかかったりして大変だということが分かりました。

あと、一億円の重さも分かるようになりました。重かったです。十円あるのにはあんなに重くないね。

○まとめ(実践を終えて)

- 社会科の学習には、たくさんの税に関する内容があることを確認することができた。本単元の学習以前に、税の成り立ちなどを意識的に取り上げて歴史の授業を進めてきたことで、「租・庸・調」や「年貢」、「なぜ税金というお金で集めるかたちになったのか。」など、いろいろな時代の税に対する興味・関心を高めることができ、学習内容の定着が図られた。
- 外部講師による租税教室を実施したことで、児童の関心も高まり、税の大切さを実感することができた。租税教室実施後の児童の日記からもその様子が見えてきた。また、絵を使った資料やDVDなど、視覚に訴える資料が効果的であった。
- 学校と税金という身近なテーマで考えたとき、具体的な金額を通して税のありがたさに気付くことができた。

【小学校】事例2「わたしたちの生活と政治の働き」(災害復旧の取組)

ポイント➤ 災害復旧の取組を調べ、地方公共団体の働きを支える税の役割の理解に重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・第6学年>社会科>(2)我が国の政治の働き>ア国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること

○単元の目標

- ・災害復旧の取組を調べることを通して、国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること、政治は国民の願いを実現し、国民生活の安定を図るために大切な働きをしていることを理解する。
- ・災害復旧のための費用には税金が使われることを理解し、安全で安心した生活を送るために税金が果たす役割を理解する。
- ・地方公共団体や国の政治の働きに関心を持ち、自分も政治に関わることができることを自覚する。

○評価規準

- ・災害復旧の取組を意欲的に調べ、地方公共団体等の政治の働きに関心を持っている。(関心・意欲・態度)
- ・聞き取り調査を行ったり、収集した資料を活用したりして、政治の働きと国民生活の関係を考え、図等を用いて適切に表現している。(思考・判断・表現)
- ・政治は国民の願いを実現し、国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること、その政治の働きの費用は国民が納めた税金によって賄われていることを理解している。(知識・理解)

○指導計画 (9時間・各1時間)

時	学習活動・学習内容	指導上の留意点 教材・資料(☆)
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どのようなことが起こったのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・被災した町の様子と災害から復旧した町の様子を比較し、その間に何があったのか(どのような災害が発生したのか、災害によってどのような被害を受けたのか、また、災害が起こったときにどのような救援活動などが行われたのか)を想像し、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆小学校プールのブロック塀や駅付近の写真 ☆災害復旧後の写真 ☆新聞記事など
2 ～ 5 (本時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">災害で壊れた道路は、誰がどのように復旧させたのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が市役所に要望を行っている。 ・市役所では、救援活動や災害復旧の計画・実現などを行っている。 ・市議会では、市民の願いを実現するために、話し合いながら仕事を進めている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">災害復旧のための費用は、どのように集められ、使われるのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・災害復旧の取組には、税金が使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆道路の写真 ・地域に住む人々の話 ・市役所や市議会議員の話 ☆市議会における話し合いの様子(議事録・写真) ☆副教材
6 ～ 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">国の政治は、どのような仕組みになっているのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・国会、内閣、裁判所の働き(略) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆国会や選挙に関する資料 ☆内閣や裁判所に関する資料
9	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の願いに基づいて、街づくりが進められていること <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">政治を支えるためにできることを考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・大人になったら、選挙に行くようにしよう。 ・自分たちの代表者が国会で話し合って決めた税金はきちんと納めよう。 ・今までより、ニュースや新聞を見るようにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・街づくりについてのインタビュー ・国民一人一人が政治に関わることができることを意識させ、将来にわたって生き続ける公民的な資質を育てていく学習を展開する。

○本時の学習(2～5/9時間)

	学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点
導入	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 災害で壊れた道路は誰がどのように復旧させたのだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・問いに対する予想を立てる。 ・現時点で「復旧」に関して見たことや考えていることを出し合う。 <p>※市役所の人に対応したからではないかな。 ※地域の人が誰かに何かを伝えたのではないかな。 ※どのくらいのお金がかかったのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害被災児に配慮を心掛ける。 ・「壊れた道路」と「直った道路」の写真を同時に提示する。 ・道路が直っていく過程にはどのような仕組みや働きがあるのか、どのような人々が関わっているのかを中心に予想を出し合わせ、単元を通した追究活動への意欲を高める。
展開	<p>2 地域、特に、町内の人々や市役所の人々にインタビューをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に足を運び、現場で仕事をしている人の声を聞くことにより、災害復旧の取組を具体的に捉え、追究していく意欲を高める。 ・学習の流れにより、市議会議員や市長などから話を聞く調査活動を行う。 ・市役所や市民など、異なった立場で調べた友達の意見などについてメモを取りながら聞いたり、まとめたりする。 <p>3 様々な立場の人々による災害復旧の取組を追究することで分かってきたことや、調べたことを基に、市や国の働きを考えながら、「関係図」にまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> </div> <p>4 関係図から気付いたことをまとめ、発表する。</p> <p>※地域の人々が、直してほしい所を市役所に要望したんだな。 ※私たちの願いは、選挙で選ばれた市の議員が話し合っただけでかなえてくれているんだな。 ※災害復旧には、身近な市役所が大きな役割を果たしているんだね。 ※国や県も災害復旧に協力して取り組んでいるんだね。 ※国や市役所などの政治の働きが反映して、災害からの復旧が実現していくんだね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 災害復旧のための費用は、どのように集められ、使われるのだろうか。 </div> <p>※災害の復旧には、みんなが納めた税金などが使われているんだね。 ※道路を直すには、たくさんの税金が使われたんだな。税金は国や地方公共団体(県や市)で集められるよ。 ※災害発生が予想されていなかったから、市議会は予算を変更する補正予算を議決して災害復旧の費用を確保したらしいよ。 ※税金は、災害復旧の取組など、私たちの暮らしを支えることに使われているんだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習を中心として多くの事実を集めながら、道路が直っていく過程の仕組みなどを解き明かしていく活動を展開させる。 ・児童が調べてきたことを取り上げながら全体で関係図を作り、調べたことを整理する。 ・「関係図」にまとめることで、「壊れた道路」が直っていく過程には人々の願いがあり、それが政治と関わっていることを捉えさせる。これらの活動を通して、災害復旧の陰に市や国の政治の働きが反映していることやそれを支える税の働きが「見える」「分かる」ようにする。 ・「災害対策本部」などの難しい用語については、補足して説明していくように促す。 ・どのような人に聞いたことなのかを補足して説明できるように準備させる。 ・キーワードに着目することで、それぞれの事項が関連していることや重要な事項を捉えていけるようにする。 ・関係図から言葉を引用している場面を捉えて賞賛する。 ・友達の関係図を見て自分の関係図にキーワードを付け足してよいことを伝える。 ・税金は災害復旧など国民生活を支えるために使われていることを理解させる。
まとめ	<p>5 本時を振り返り、学習内容をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 災害で壊れた道路は、〇〇が、〇〇して復旧することができた。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・当てはまる言葉(「政治の働き」、「反映」)を考えさせる。

【小学校】 事例3 「政治の働きを支える税」(地域の開発)

ポイント➤ 市民が納める税によって地方公共団体の活動が行われていることへの理解に重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

・第6学年>社会科>(2)我が国の政治の働き>ア国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること

○単元の目標

・地域の人々の願いである地域開発の事業や予算、その費用を賄う税金の使われ方について学習することを通じて、政治は人々の願いを実現するために行われるものであり、民主的な手続により、税金として集められたお金を使って、人々に様々な福利がもたらされていることを理解する。

○指導計画 (7時間・各1時間)

- 第1時 まちで暮らす人たち
- 第2時 住みよいまちをめざして
- 第3時 市の政治と税金の働き<本時>**
- 第4時 国会の働き
- 第5時 内閣の働き
- 第6時 裁判所の働き
- 第7時 単元のまとめ



○本時の学習

1 本時の目標

歩行空間を確保し、商店街を活性化する駅前広場の整備など、地方公共団体の活動に必要な費用は、市民などが納める税金で賄われており、税は私たちがより豊かで安全・安心な生活を送るために大切な働きをしていることを理解する。

2 指導のポイント

副教材の活用、外部講師の活用

3 本時の展開(3 / 7時間)

	学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	<p>1 市が行う〇〇駅北口駅前広場整備事業の総事業費を知る。 ※約100億円もかかっているんだ。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〇〇駅北口駅前広場の整備の費用は、どこから出ているのだろうか。</p> </div> <p>※税金が使われていると思うよ。 ※私たちの払っている消費税も関係あるのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の開発事業として、まちの玄関口である駅の整備事業を取り上げる。 ・整備事業が国民生活の安定と向上(例えば、交通利便の向上、歩行空間など安全の確保、商店街の活性化など)のために行われたものであることを押さえる。 ☆整備事業の前後における〇〇駅北口駅前広場の様子(写真など) ・事業費の金額をイメージさせるために身近な公共施設の建設費などと比べる。 ・具体的な金額を提示することで、社会的な負担が必要であることを理解させる。
展開	<p>3 学習課題について、教師が作成した資料や副教材を読み取り、ノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆教科書や教師が作成した資料、副教材 ・個人研究時に追究が進まない児童に対しては、副教材を活用するよう助言する。その際、どのような税金がどこに納められているのかを児童と共に確認し、消費税及び地方消費税、所得税や住民税など、様々な形で国や市に税金が納められていることを理解させる。 ・国税と地方税があることを理解させる。

展開

4 各自がまとめた内容についてクラス全体で交流する。

・100億円の約半分のお金は国が出している。
・私たちが払っている消費税や家の人の収入から納める所得税は、国に行くことになっている。

・残りの約半分のお金は市が出している。
・自分で商売している人や会社に勤めている人が納める住民税は、市区町村や都道府県に行くことになっている。

・私たちの家の人が納めた税金によって、〇〇駅北口駅前広場の整備の費用が賄われているんだ。

・〇〇駅北口駅前広場の整備は、交通の利便を向上させたり、歩行空間を創り出して安全を確保したり、商店街の活性化などにもつながる事業だ。つまり、税金は私たちの生活に大切な役割を果たしているといえる。

5 外部講師の話聞き、思ったことを交流する。

- ・〇〇駅北口駅前広場の整備以外にも、教育、警察や消防、公園や道路の整備、ごみ収集、医療や年金など、私たちの生活に欠かせないところに税金が使われているんだ。
- ・個人の力では、これらに必要なたくさんの費用を出すことは難しいけれど、みんなが税としてお金を出し合えば、これらの費用を賄うことができるんだ。だから、私たち一人一人がきちんと税を納めていくことが大切だ。



- ・地方税に地方消費税があること、地方消費税は地方公共団体の活動費用に使われていることに気付かせる（消費税及び地方消費税の税率10%のうち2.2%。令和4年4月現在）。

- ・全体交流時には、税金の役割についての発言を全体に広め、その発言についてどう思うかを問い、税金と自分たちの暮らしとの関わりを捉えることができるようにする。

☆副教材を活用

- ・外部講師に、地方公共団体や国の税金の使いみちと予算額などについて分かりやすく話をしてもらい、税金の役割を理解させる（児童の理解が深まるよう、駅前広場の整備以外の身近な税金の使いみちについて話をしてもらう。また、教科書の裏表紙に「国民の税金により無償で支給」と書かれていることに気付かせる。）。
- ・外部講師の話聞いて思ったことを交流する中で、「豊かで安全・安心な暮らしを支えるのは一体誰なのか。また、そのような暮らしを支えるために大切なことは何か。」と問い、自分たち自身が政治の働きを支える納税者であり、その義務を果たすことが豊かで安全・安心な暮らしをつくり出すことになることに気付かせる。

まとめ

- 6 学習のまとめをノートに書く。
- ※〇〇駅北口駅前広場の整備をはじめとして、国民が豊かで安全・安心な生活を送るための地方公共団体や国の政治の働きに必要な費用は、国や市の税金によって賄われているんだ。
 - ※そんな大切な役割をしている税金を納めるのは私たち一人一人だ。だから、大人になってもきちんと税金を納めていきたいと思う。

【中学校】事例1 「政府の働きを支える税の役割とその仕組み」

ポイント▶ 税の意義や役割、基本的な税の仕組みを学ぶことに重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・公共サービスの財源を賄う税の意義・役割や基本的な仕組みを理解する。
- ・政府の経済活動(財政)に対する関心を高め、社会資本の整備、社会保障の充実、環境の保全など市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して政府が果たしている役割や、日本の財政の課題を理解する。

○評価規準




- ・税の意義や役割、基本的な仕組みを理解している。(知識・理解)
- ・市場の働きに委ねることが難しい諸問題を具体的に考えることができている。(思考・判断・表現)


○指導計画 (5時間・各1時間)

第1時 政府の仕事と租税<本時>

- 第2時 財政の働き
- 第3時 社会保障と国民の福祉
- 第4時 公害の防止と環境保全
- 第5時 日本経済の課題

○本時の学習 (1/5時間)

	学習活動・学習内容	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	<p>1 「税の意義や役割について、自分の言葉でまとめてみよう。」</p> <p>2 身近な税の使いみち(学校教育費)</p> <p>・公立学校に通う生徒一人当たりの年間教育費(国と地方公共団体の負担額)を予想する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>小学生</p>  <p>約 928,000 円</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>中学生</p>  <p>約 1,091,000 円</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>高校生(全日制)</p>  <p>約 1,016,000 円</p> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">(令和元年度)</p> <p>・月謝に置き換えると、毎月約9万1千円が必要となることを知る。</p> <p>・教育費にかかる国や地方公共団体の歳出金額を調べる。</p> <p>・国や地方公共団体が教育費を負担(支出)している根拠を調べる(憲法第26条第2項「義務教育は、これを無償とする」)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を提示する。 ☆国税庁 HP「税の学習コーナー(発展編)」、副教材 ・歳出金額をイメージさせるために、100万円の束が1cm、1億円が1m、1兆円が10kmなどと考えさせる。 ・教科書裏表紙の記述「国民の税金で無償で支給」に気付かせる。
展開	<p>3 税の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金が使われている施設を挙げ、それらの共通点を考える。 →「街のみんなが利用する」、「営利目的ではない」、「街に必ず必要」など ・政府の役割は、利潤を追求する民間では供給されにくい公共施設や公共サービスの提供にあり、その建設や運用の費用には税金が使われている(税は公共サービスの財源である)ことを理解する。 <p>4 税の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVDを視聴し、税のある暮らしとない暮らしとを比べ、税がなければどのような社会になるのかを考え、税の必要性を理解する。 ・納税者が納税の義務を果たさなかったらどうなるのかを考える。 →公共サービスを賄う財源が不足し、税のない社会と同じになることに気づき、納税の義務を果たすことの大切さを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共サービスは、私たちの暮らしに欠かせないものであること、その提供には費用がかかり、税はその費用を賄うものであることを理解させる。 ☆国税庁 DVD(「ご案内します アナザーワールドへ」(15分57秒))

<p>展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> 税は、公共サービスの費用を賄うものであり、みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくための費用は、みんなが広く公平に分ち合うことが必要である。このため、税は「社会の会費のようなもの」とであると言えることを理解する。 <p>5 税の仕組みや種類・分類</p> <ul style="list-style-type: none"> 会社員の一日の生活の例から、どのような税が関わっているのか、どのような税の種類があるのかを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【家】住民税（住むこと）、固定資産税 → 【会社】法人税、所得税（給料） → 【外出】自動車税、ガソリン税（揮発油税）、消費税（買い物）、相続税（葬儀場） → 【帰宅】酒税、たばこ税 など</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 税の基本的な仕組みや種類・分類などを理解する。 <p>【所得税】</p> <ul style="list-style-type: none"> → 会社員の所得税は、会社が毎月給料から差し引き、年末に1年間の税額の過不足を精算する（年末調整）。 → 事業者などの所得税は、1年間の所得や税額を自分で計算し、確定申告の時期に申告・納税する。 <p>【消費税】</p> <ul style="list-style-type: none"> → 生徒は、物を買う都度消費税を支払っているが、税務署への申告・納税は、お店が確定申告の時期などに行っている。 <ul style="list-style-type: none"> 消費税のように負担者と納税者が異なる税は間接税、所得税のように一致する税は直接税に区分されることを理解する。 これまでに学習した税の種類や分類（直接税と間接税、国税と地方税）を整理する。 所得税など国税は、自己の所得等を最も正確に把握している国民が自ら税額を適正に計算し申告と納付を行う申告納税制度（自発的に納税義務を履行する民主的な税制度）であることを理解する。 税の公平とは、税を負担能力に応じて分ち合うという意味であり、公平には2つの大きな考え方があることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> → 等しい負担能力のある人（経済力が同じ人）は等しい負担をするという考え方（消費税など） → 負担能力の大きい人はより大きな負担をするという考え方（所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率））。 <p>6 選挙と税</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の選挙の争点を調べ、税との関わりを考える。 <ul style="list-style-type: none"> → 選挙の争点の多くは、税の使いみち（どのような政策を行うか）や税の集め方（その財源をどのように確保するか）に関わる問題であることに気付く。 税の使いみちや集め方は、国民が選挙により選んだ代表者が国会で決めていることを理解する。 主権者である国民が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識を持つことの大切さを理解する。 自らの代表が国の支出の在り方を決めることと自らが国を支える税を負担しなければならないことは、表裏一体であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「公平」、「社会の会費のようなもの」などのキーワードは板書し、認識の共有化を図る。 <p>☆イラストなど</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な生活と税が密接に関わっていることに気付かせる。 <p>☆国税庁 HP「税の学習コーナー（発展編）」、副教材</p> <ul style="list-style-type: none"> e-Tax など ICT を使って確定申告や納税ができることに気付かせる。 生徒も消費税を負担している税の負担者であることに気付かせる。  <ul style="list-style-type: none"> 「公共サービスの費用は、広く公平に分ち合う必要がある」と学習したことを再確認する。 公共サービスの財源を賄えるよう、また、負担が公平になるよう多くの税の種類が組み合わせられていることに気付かせる。 総務省・文部科学省作成副教材「私たちが拓く日本の未来」活用のための指導資料（指導上の政治的中立の確保等に関する留意点）の記載に留意する。 <p>☆新聞記事</p> <ul style="list-style-type: none"> 選挙に関する新聞記事を活用し、地方創生、教育・子育て、福祉、復興、増税・減税などのヒントを出しながら考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 生徒の言葉でまとめさせる。
<p>まとめ</p>	<p>7 本時のまとめとして、「税の意義や役割について考えたこと」をワークシートに自分の言葉で表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の言葉でまとめさせる。

【中学校】事例2「私たちの生活と税の役割を考える」

ポイント▶ 外国の事例を参考に、消防など公共サービスの費用を賄う税の役割を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・身近な例を通して生活と税の関わりに気づき、税の役割や納税の義務を果たすことの大切さを理解する。
- ・社会の一員（税の負担者）として、税の使いみちなど国・地方公共団体の経済活動（財政）に関心を持ち、政府の役割や財政の在り方について考え、意見を持つことの大切さを理解する。

○指導計画（5時間・各1時間）

第1時 私たちの生活と税の役割<本時>

第2時 私たちの生活と財政

第3時 国の支出と収入

第4時 社会保障と私たちの生活

第5時 社会資本の役割と環境への取組



○本時の学習（1／5時間）

	学習活動・学習内容	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の展開についての説明を聞く。 ・ワークシートの本文を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を朗読する。
展開	<p>1 ワークシート（課題1）</p> <p>①各自が（課題1）の「予想」欄を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記入後、複数の生徒が予想を発表し、意見交換を行う。 <p>②米国テネシー州サウスフルトン市の消防の仕組みの説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の消防サービスを受けるには毎年75ドルの費用を支払う必要があること、市長の「消防活動は市が提供するサービスでサービスを受けるか受けないかは住民の自由である」という考え方を知る。 ・「正解」欄に「Aさんは、消防のサービスを受けるための費用を払っておらず、Bさんは払っていたから。」と書く。 ・正解を聞いてどう思ったか、複数の生徒が感想を発表する。 <p>③日本とサウスフルトン市との違いを考え、班ごとに意見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では、消防活動の費用は無料である。 ・日本では、消防活動の費用は税で賄われており、消防活動は納税の有無にかかわらず行われる。 <p>→国民の生命を守る消防などの公共サービスは国民みんなに広く提供されており、その費用は税という形で社会の構成員である国民が広く分かち合って分担していること、憲法には納税の義務があることを理解する。</p> <p>2 身近な生活と税との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の一日の生活の例を通して、自分たちの生活と税の関わりに気づき、税は自分たちの暮らしを支え、生活に欠かせないものであることを理解する。 <p>（起床）洗面や調理に使う水・上下水道の整備⇒（登校）学校に通うための道路や信号⇒（授業）学校など教育施設の建設、机・椅子・教科書⇒（部活動）陸上競技場や野球場などの施設作り⇒（だんらん・夕食）安全な食品を作る農業・漁業の支援⇒（就寝）夜の安心、日々の安全を守る警察や消防</p> <p>3 ワークシート（課題2）</p> <p>発問：「もし、国民が税金を納めなかったら（納税の義務を果たさなかったら）、どのようなことが起こるでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（課題2）について考え記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視し、記入の進まない者に助言する。 ・導入なので自由な発言を引き出し、雰囲気盛り上げる。 ・生徒の意見を受け説明を加える（公共サービスの負担の在り方や納税の義務などに関わる問題であること、日本は受益＝負担ではないこと、生徒も社会の一員として消費税を負担していることに気付かせる。）。 ・副教材やイラストなどを活用する。 ・国税庁HP「税の学習コーナー」（発展編）を活用し、国民一人当たりの警察・消防費（約43,179円・令和元年度）など具体的な金額を提示する。 ・学校や警察がどうなるか、具体例を提示して思考の足場を組ませる。 ・税がなければどのような社会になるかを考えさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「街・地域」では、どのような公共施設や公共サービスがあるのかについても考える。 ・記入後、班内で各自の意見を発表する。 ・納税の義務を果たすことの大切さを理解する。 <p>4 ワークシート（課題3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急車の出動回数の増加に対して有料化すべきとの意見があることについて考え、賛成か反対か、理由も併せて記入する。 ・班ごとに賛成派、反対派に分けて意見を発表し、意見や質問があれば発表し、意見を交流する。 ・政府がどのような公共サービスを提供するのかは、最終的に住民や国民の意思（選択）により決定されることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政府は市場の働きに委ねることが難しいサービスを提供していることに気付かせる。 ・税負担が当たり前とされる公共サービスを取り上げ、生徒自身が税の負担者として公共サービスの負担の在り方などについて考え、意見を持つことの大切さに気付かせる。
まとめ	<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共サービスの費用を賄う税の役割や納税の義務を果たすことの大切さを学んだことを理解する。 	

○評価規準

- ・議論に積極的に参加し意見を述べ、異なる意見の存在を認めることができている。（関心・意欲・態度）
- ・公共サービスの負担の在り方について考えることができている。（思考・判断・表現）
- ・税の役割、納税の義務を果たすことの大切さを理解している。（知識・理解）

○教材・資料（ワークシート ※Word版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。）

学習日：令和 年 月 日

「私たちの暮らしと政府の経済活動」

（ ）年（ ）組（ ）番 名前（ ）

2010年秋にアメリカのテネシー州サウスフルトン市で起こった本当の話です。

Aさんの家が火事になりました。Aさんは急いで消防署に電話をしました。

ところが、火事が起こっているにもかかわらず、消防隊はAさんの家に向かおうとしませんでした。消火活動が行われないうまま、Aさんの家は、どんどん燃えていきました。やがて、隣のBさんの家へと、火は燃え広がっていきました。

隣のBさんの家に火が燃え移って、初めて消防隊が出動しました。

現場に到着した消防隊が消火活動を行ったのは、火が燃え移ったBさんの家だけでした。初めに火が出たAさんの家に対して、消防隊は消火活動を全く行いませんでした。

結局、Aさんの家は全焼しました。

(課題1) 消防隊がAさんの家には何もしないで、Bさんの家だけに消火活動を行ったのはなぜでしょう。

予想

正解は・・・

(課題2) 「もし・・・」

学校では・・・

警察では・・・

街・地域では・・・

(課題3) 「救急車の有料化について・・・」

【中学校】事例3 「公平な社会って何だ？」

ポイント▶ 税金を納めるシミュレーションを通して、グループワークにより公平な社会を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・「国民の願いを実現するため、納税者となって税金を納める」というシミュレーションを通して、公共サービスの財源を賄う税の役割、税の公平の考え方、日本の財政状況を理解し、総合的に考える。
- ・それぞれの立場に配慮し、公平な社会の在り方について多面的・多角的に考え、判断する。

○指導計画 (2時間・各1時間)

第1時 「納税者になってみよう」<本時1>

第2時 財政の現状と課題 <本時2>

○本時1の学習 (1/2時間)

	学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体をワークシート(前提)①のA~G7グループに分け、各グループの立場を決める。 ・ワークシート(前提)の各人の立場、収入と願い、全体に必要な予算総額を理解する(①~④)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人々には様々な願いがあることを知る。
展開	<p>1 ワークシート(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(前提)④の予算総額を念頭に置き、各人が収入からどのくらいの税金を納めることができるかを考え、その金額と理由を②、③に記入する。 ・グループ内で、各人が決めた納める税金の額を発表する。 ※180万円から20万円を納める生徒や、2,000万円から1円も納めない生徒もいる。 ・グループ内で、各人が発表した税金の額及び理由について話し合う。 ・グループ内で話し合った結果を発表する。 ・グループ間においても意見交換をする。 ※それぞれの税金の額を比べながら、「私より収入が多いのに税金が少ない。」「収入が多いのだから、もう少し納めてほしい。」など、生徒たちは様々な反応を示す。 ・各人が納める税金(②)を収入(①)で割り、それぞれの税率を計算し、④に記入する。 ・グループ内で、各人が計算した④の税率を比較する。 ・税率が同じ場合は、消費税に代表される水平的な公平となっていること。税率が異なる場合は、所得税に代表される垂直的な公平(収入(所得)が多いほど税率が高い累進税率の場合)となっていることを理解する。 ・ワークシート(参考)の所得税の税率と④の税率とを比較する。 <p>2 ワークシート(課題2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各人の収入には、(参考:所得税の税率)のどの税率が適用されるのかを確認し、①に記入する。 ・「税額の計算例」を参考に、納める税金を計算し、②に記入する。 ・(課題1)②の納める税金と(課題2)②の納める税金とを比較する。 <p>3 公平な社会とは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの公平の考え方や所得税の税率を知り、改めて各人の税負担や公平な社会の在り方について話し合う。 ※税率は同じにした方が平等だと思う。その場合でも収入が多ければ納める税金が多くなるのに、税率まで高くするのはおかしいと思う。 ※収入が多い人は損だとも思えないが、「助け合いの心」だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の税負担を具体的に考えることにより、納税の実感を得させる。 ・言葉で伝えることで自身の価値判断の根拠を自覚させる。 ・他者の意見を聞くことで、異なる視点から物事を見つめ直し、自身の価値判断の根拠についても再考させる。 ・税の公平には、水平的公平と垂直的公平の考え方があることを示す。 ・水平的公平→等しい負担能力のある人(経済力が同じ人)は等しい負担をする(消費税や個人住民税は、税率は一定だが、課税対象額が多くなるほど税額が多くなる仕組み(比例税率)。令和4年4月現在)。

<p>※全員が同じ税金を納めるのは金額だけ見れば平等かもしれないけど、収入に応じた負担は平等ではないから、累進税率は良いと思う。</p> <p>※累進税率は賛成だけど、税率のバランスが悪いと思う。もっと高所得者の税率を高くして、低所得者の税率を下げた方がよい。</p> <p>※垂直的公平だと貧富の差がなくなるけど、やり過ぎると真面目に働く人がいなくなるので難しいと思った。</p> <p>※どちらもそれぞれに公平だと思う。それぞれに必要とされる場面が違うので、その場に応じた公平の適用が必要だと思う。</p> <p>※どちらの公平が正しいとか、どちらにすべきというものではないと思う。人によって考え方は違うので、公平というのは難しいなと思った。</p> <p>※結構な税金を払わなければならないことに驚いた。</p> <p>※両方の公平を上手く組み合わせてバランスを取ることが大事だと思うた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・垂直的公平→負担能力の大きい人はより大きな負担をする（所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率））。 ・社会全体の利益と個の在り方について総合的に考えさせる。 ・「公平な社会とは何か。」について自分なりの見解を持たせる。
---	---

○本時2の学習（2 / 2時間）

	学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習をする。 	
展 開	<p>1 「みんなで考えて、税金を納めてくれましたが、人々の願いを全て実現するには税収が足りません。さて、どうしたら良いでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税収が不足する場合の対処方法について考え、グループで話し合う。 ・意見を発表する（他者の意見を聞く。）。 <p>※増税する、公債を発行する、一部の願いを諦めるなど、様々な意見。</p> <p>2 財政に関する資料を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の財政の現状（深刻な財政赤字の状況や諸外国との税負担の違いなど）を知り、今後の日本の在り方について考え、意見を発表する。 <p>※必要なお金と集まるお金にこれほど差があるとは思わなかった。</p> <p>※税収が全体の半分くらいで、公債に頼っているのはよくないと思った。</p> <p>※少子高齢化に伴い、問題が生じていることは知っていたが、これほど影響が出ているとは知らなかった。</p> <p>※諸外国に比べ税負担は少ないので、もう少し増税してもいいのではないかと思う。</p> <p>※負担く福祉はうれしいけれど、公債によって負担を先送りするくらいなら国のサービスを減らせばいいと思う。</p> <p>※国の現状がよく分かって、国民の一人として真剣に考えていくべきだと思った。</p> <p>※日本は問題を先送りしていて、きちんと向き合っていないと思った。</p> <p>※完璧な社会を作り上げることは無理でも、公平な社会を作り上げていかなければならないと思った。</p> <p>※税によるサービスが充実しているのはうれしいけれど、借金で負担を先延ばしにしていることを知って少し嫌だった。将来の人に負担を押し付けないためには増税も必要だと思う。</p> <p>※みんなが税制について完璧に納得して、誰一人不満なく暮らせる社会が理想だけれど、それはとても難しいから、一人一人がどの程度の我慢をするかということを考えていかなければならないと思う。</p> <p>※今日の授業を通して、私たちも国民の一人として考え、意見を言うことができるようになって良かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は財政の現状を知らせず、グループの話し合いの中で独自の発想を引き出す。 <p>☆財務省 HP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を聞き、歳入と歳出のアンバランスや諸外国の現状等を知った上で、今後の日本の在り方について改めて考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・人々の願いは様々であり、主権者である国民一人一人が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識を持つことの大切さを理解させる。
ま と め	<p>3 まとめ、質問など</p>	

○まとめ(実践を終えて)

- ・みんなとても熱心にグループ討議を重ね、積極的に発言が出された。中でも、「一部の人が裕福で、一部の人が見捨てられるような国は嫌だ。」「たくさん税金を払っても、それが社会のためになっているのなら頑張ろうと思う。」など、思いやりの心や相互扶助の精神が強く感じられたことが特に印象的であった。
- ・他者の立場や社会全体の利益に配慮し、「みんなの生活が良くなるように」という視点で物事を捉える姿勢には感心するものがあった。
- ・生徒間の議論を通じ、様々な価値観に触れることで、自分自身の考えについて見直すきっかけにもなったようにも感じられた。
- ・これからの社会を担う生徒たちに、今後も税を通して社会の在り方について考えるきっかけを与えることができればと思う。

○教材・資料 (ワークシート ※Word版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。)

(前提)

① 各人の立場	②各人の収入 (所得)	③各人の願い (例)	④③の政策に 必要な予算額
高齢者のAさん	250万円	医療費負担の軽減、介護支援等 ＝高齢社会における社会保障	※6,800万円
育児中のBさん	500万円	子育て支援(児童手当、育児環境整備)など＝少子化対策	1,600万円
フリーターのCさん	180万円	雇用創出、企業への補助金支給 など＝生活保障と経済効果	3,800万円
企業経営者のDさん	2,000万円	景気回復など＝景気の安定化	7,200万円
災害に遭われたEさん	800万円	住宅確保、インフラの復旧など ＝災害時の社会保障	5,300万円
持病をもっているFさん	350万円	医療費負担の軽減など	(※に含まれる)
介護をしているGさん	1,000万円	介護休暇制度の充実など	(※に含まれる)
合計	5,080万円	—	2億4,700万円

(課題1)

各人の立場	①各人の収入 (所得)	②納める税金	③理由	④税率 (②/①)
Aさん	250万円	万円		%
Bさん	500万円	万円		%
Cさん	180万円	万円		%
Dさん	2,000万円	万円		%
Eさん	800万円	万円		%
Fさん	350万円	万円		%
Gさん	1,000万円	万円		%
合計	5,080万円	万円	—	—

(課題2) ※便宜上、収入＝課税所得(収入から差し引く経費なし)として計算

(参考：所得税の税率) ※令和4年分

各人の立場	①各人の税率	②納める税金
Aさん	10%	152,500円
Bさん	20%	572,500円
Cさん	5%	90,000円
Dさん	40%	5,204,000円
Eさん	23%	1,204,000円
Fさん	20%	272,500円
Gさん	33%	1,764,000円
合計	—	9,259,500円

課税される所得金額	税率
195万円以下	5%
195万円超～330万円以下	10%
330万円超～695万円以下	20%
695万円超～900万円以下	23%
900万円超～1,800万円以下	33%
1,800万円超～4,000万円以下	40%
4,000万円超	45%

税額は、課税所得金額ごとの税率を掛けて計算します。

税額の計算例：課税される所得金額が400万円の場合

- ・195万円×5%＝97,500円
- ・(330万円－195万円)×10%＝135,000円
- ・(400万円－330万円)×20%＝140,000円
- ・97,500円＋135,000円＋140,000円＝372,500円

【高等学校】事例1 「主権者として、納税の意義を考える」

ポイント➤ 税の機能や意義を理解し、納税者としての意識を醸成することに重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・公民科>現代社会>(2)現代社会と人間としての在り方生き方>エ現代の経済社会と経済活動の在り方>政府の役割と財政・租税


○単元の目標

- ・日本の厳しい財政状況と少子高齢社会における社会保障費の増大を背景として財政の在り方が議論されている中で、政府の役割を正しく理解し、主権者として良識ある判断ができる能力の基礎を養う。
- ・財政には、市場に委ねることが困難な財・サービスの供給、公正の観点に基づく所得の再分配、景気の安定を図る等の役割・機能があることについて理解を深めるとともに、租税を中心とした公的負担の意義と必要性について考察を深める。
- ・納税者として必要な税の手続を学ぶとともに、キャリア教育の観点から、税の仕事に携わる人の姿を通じて生徒の職業観の醸成につなげる。

○評価規準

- ・税への関心を高め、納税者としての自覚を身に付けようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・財政問題について、理解した内容をまとめ、文章で表現している。(思考・判断・表現)
- ・資料を正しく読み取り、財政の現状を理解している。(資料活用の技能)
- ・政府の役割、税の機能や意義について正しく理解している。(知識・理解)

○指導計画 (4時間・各1時間)

時	学習活動・学習内容	指導上の留意点、教材・資料(☆)
1	○主権者として、納税の意義を考える ＜本時＞	
2	○公平な税制を考える ・グループワークを通して、公平な税制を考える。 ・累進課税制度を理解する。	(事例2を参照)
3	○財政について考える ・財政制度、財政の仕組みや機能を理解する。 ・歳入と歳出、国債発行額等のグラフを見て、財政の現状と課題を把握する。 ・財政問題の解決方法を考え、意見をワークシートにまとめる。	・財政を捉える上で重要な用語や概念等についてはあらかじめ押さえておく。 ☆国税庁 HP「税の学習コーナー(発展編)」や副教材の歳入・歳出の円グラフ、国債発行額のグラフなどを参照させる。 ・一人一人が財政に関心を持ち、主体的に考え行動することが重要であることを理解させる。
4	○納税者として必要な税の手続について学ぶ ・国税庁ホームページ「税の学習コーナー」(実践編、パワーポイントの高校生用教材)やパソコン等で申告書が作成できる「確定申告書等作成コーナー」を活用し、源泉徴収票の見方などを学び、所得税の確定申告書の作成を体験する。  ○税の専門家(税務職員や税理士)の話聞く ・税に関することについて質問をしたり、税に関する仕事の実務について話を聞いたりする。	・税の専門家やICTを活用する。 ・確定申告書の作成を体験し、自立して社会生活を営むに当たり、必要な税の知識や実践力を身に付けさせる。 ・確定申告は、納税の義務を果たす手続の一つであることに気付かせ、自身と社会とのつながりを意識させる。 ・キャリア教育と関連させ、税に関する仕事を知る。

○本時の学習

1 本時の目標

- ・政府の役割、税の機能や意義を理解する。
- ・納税者として、納税の義務を果たすことの意義を理解する。

2 本時の展開 (1 / 4 時間)

	学習活動・学習内容	指導上の留意点、資料等(☆)
導入	<p>なぜ、私たちは税金を納めなくてはならないのだろう？</p> <p>1 市場経済における政府の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳出の円グラフを見て、政府（財政支出）に対する主権者である国民の要望（ニーズ）にはどのようなものがあるのかを考える。 →社会保障（けがや病気等の医療、年金・介護など）、公共事業、教育、防衛、地方公共団体の財政調整など。 ・歳出全体の金額を○年前と比較し、全体として財政支出が増えていることを知る（財務省 HP→財務省の政策→予算・決算→予算・決算の関連資料・データ→財政統計（予算・決算等データ）→統計表一覧 2. 予算及び決算の分類(1)(2)を参照）。 ・歳出のどの項目が、どのくらい増えているのかを調べ、その背景を考える。 ・政府の役割は、主権者である国民の要望（ニーズ）に応える公共財や公共サービスの提供にあることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題を提示する。 ☆国税庁 HP、副教材等を参照。 ☆内閣府「国民生活に関する世論調査」の政府に対する要望が高いのは、医療・年金等の社会保障の整備、新型コロナウイルス感染症への対応、景気対策、高齢社会対策、など（令和3年度）。
展開	<p>2 税の機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府が役割を果たすためには、何が（どのような働きが）必要であるかを考える。→財源を集める、集めた財源を再分配する、景気の安定化を図るなどの働きが必要であることを理解する。 ・これらの機能を税が有していることを理解する。具体的には、 <ul style="list-style-type: none"> ・公共サービスの財源を調達する機能 ・所得税や相続税などの累進税率で集めた財源を社会保障などに支出し、所得や資産（富）を再分配する機能 ・減税や増税を行い、景気の安定化を図る機能 ・その他、様々な政策目的を実現する機能 ・税の一番基本となる機能は、どの機能であるかを考える。 →市場経済において政府が役割を果たすためには、「財源の裏付け」が必要であり、税の基本的な機能は財源の調達にあること、税は政府の役割を果たすための財源であることを理解する。 <p>政府の財源は、誰が、どのように負担するものだろう？</p> <p>3 公共サービスの特徴と税の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ公共サービスを市場に委ねることが難しいのかを考え、グループで議論する（例えば、以下のような公共サービスについて）。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・生活道路の利用は・・・ ・警察による安心・安全は・・・ ・外交や国防は・・・ ・様々な法律は・・・ など </div> ・次に、公共サービスの対価（便益の価格）を正確に把握し、料金を徴収できるかどうかを考え、グループで議論する。 →これらが困難であることを理解する。 ・更に、公共財の性質を理解した上で、公共サービスを市場のみに委ねた場合はどうなるかを考え、グループで議論する。 →安全・安心な社会に欠かせない外交、防衛、警察、消防、司法等は、市場から全く提供されない可能性があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「再分配」は、最低限の生活確保や不平等（格差）是正を図る働きを有していることに気付かせる。 ・所得が高いと税率が高くなる累進課税の仕組みは、ビルトイン・スタビライザー機能（景気を自動的に安定化する役割）も果たしていることに気付かせる。 ☆諺「絵に描いた餅」を用いて、「財源の裏付け」がなければどうなるかを考えさせる。 ・公共サービスの中には便益が明確なものもあり、その場合の費用は、手数料等で賄われることに気付かせる。

<p>展開</p>	<p>→社会資本（道路など生活や産業を支える基盤となる）、教育（次代を担う人材を育成する）、社会保障（安心できる生活を確保する）等は、必ずしも必要な量や水準が確保されないおそれがあることを理解する。</p> <p>→公共サービスは、民間部門の働きを補完し、広く社会の構成員全体の利益にかなう役割を果たしていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの議論を整理し、政府の財源である税は誰が負担するものなのかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> 税の基本的な機能は、主権者である国民の要望に応える公共サービスの財源調達にあり、税は社会を成り立たせるためになくしてはならないものである。 公共サービスの受益と負担とは直接結びつけることができない（公共サービスに価格を付け、その対価を料金として徴収できない）。 公共サービスの便益は、主権者である国民（社会の構成員）が広く享受するものである。 →公共サービスの財源を賄う税は、主権者である国民（社会の構成員）みんなが広く公平に分かち合うことが必要である（公共サービスの供給費用は、国や地方公共団体が公共サービスの直接の対価でない「税」という形で一括して集めている。）。 ⇒このようなことから、税は「社会共通の費用を賄う会費のようなもの」と言えることを理解する。 <p>4 主権者と納税の義務</p> <ul style="list-style-type: none"> 憲法第30条を調べる。「（主権者である）国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。」 税のルール（税制）は、主権者である国民が選挙で選んだ代表者が国会で制定した法律によること（憲法第84条・租税法律主義）、を理解する。 税のルールは、「公平」など、税の基本原則の考え方によっていることを理解する。 国民（納税者）が、納税の義務を果たさなかったら、どうなるかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> →不公平が生ずるとともに、本来あるはずの「財源の裏付け」がなくなり、主権者である国民の要望がかなえられず、社会や国が成り立たなくなることを理解する。 消費税を負担している生徒たちも他者と共に社会や国を支える一員としての役割を果たしていることを理解する。 税の使いみち（予算）も国民の代表者が国会で審議・議決して決めており、国民（納税者）が納めた税の使いみちが、主権者である国民の政府に対する要望に応えたものとなっているか（公的サービスの提供が効率的なものとなっているか）、税の使いみちに関心を持つことの大切さを理解する。 税は、国民生活や経済社会の在り方と密接に関連するものであり、税の在り方について考えることは、社会の構成員であることを自覚し、公共サービスの在り方、社会や国の在り方を考えることにつながることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共財の性質（非競争性：同時にサービスを受けられる。非排除性：対価を支払わなくてもサービスを受けられる。）、費用負担を避けるフリー・ライダー（ただ乗り）の問題について説明する。 ☆国民が税を納め、公共サービスを享受する矢印を用いたイラスト（副教材など）を参照させる。 ☆最高裁判決（昭和60年3月27日）要旨「民主主義国家では、国の維持・活動に必要な費用は、主権者である国民が、共同の費用として自ら負担すべきもの」を紹介する。（30ページを参照） 公共サービスと税の対価関係が明確でないため、別の基準により税負担のルールを決めることに気付かせる。 国民は代表者の選出などを通じて議論に参加していく必要があることを理解させる。 義務を果たさなければ他者に負担がかかることを認識させ、自分たちが決めた税のルールを自分たちが守る規範意識の大切さに気付かせる（道徳性の視点）。 税は負担の話に目が行きがちだが、その使いみちにも関心を持つことが大切であることに気付かせる。 政府がどのようなサービスを提供するかは最終的に国民の意思（選択）により決定されることに気付かせる。
<p>まとめ</p>	<p>5 学習内容の振り返り、まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 税の学習を通して、税の機能や意義、納税の義務を果たすことの意義を学んだことを理解する。 	

【高等学校】 事例2 「公平な税制を考えてみよう」

ポイント▶ グループワークを行い、公平な税制について主体的に学ぶことに重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・公民科>現代社会>(2)現代社会と人間としての在り方生き方>エ現代の経済社会と経済活動の在り方>政府の役割と財政・租税

○単元の目標

- ・財政と租税の役割や仕組みを理解し、「公平な税制とは何か」を主体的な学びを通して考える。
- ・グループワークを通して、他人の意見を聞くことの大切さを知る。

○指導計画 (3時間・各1時間)

第1時 政府の経済的役割と財政の仕組み

第2時 租税の役割と仕組み (外部講師による租税教室)

第3時 公平な税制を考えてみよう<本時>

○本時の学習 (3/3時間) ※ () 内は指導上の留意点

- 1 6つに班分けし、ワークシートのワーク1 (税の財源調達機能) を考える (この場合、生徒からは、税金、通行料、寄附、借金などのアイデアが出されるが、毎日の通行料は煩わしい、通行料を集めるには人を雇う必要がある、寄附は集まらなかつたら困る、寄附を割り当てるなら税金と変わらない、借金には利子が付いて将来税金で返さなければならない、それなら税金がいいなどの意見が予想される。)
- 2 「公平に集めたい」との条件で、各班の収入が同額の場合のワーク2を考える (この場合、1,800万円の税金を6で均等割りして各班300万円を納税する (定額) などの解答が予想される。)
- 3 次に、収入が異なる場合のワーク3を行う (ワーク2の考えを適応すれば各班300万円の納税が生ずるが、E班は税金を納めれば残りが0円に、F班に至っては税金の方が収入より高くなってしまい納めることができなくなる。そこで不足している税金をどこで補うのか、また、補う場合の根拠や基準はどこにあるのか、議論をさせ考えさせる。また、なぜそう考えたのか、理由をワークシートに書かせる。)
- 4 グループで話し合ったことについて理由を付けて発表する (一番収入の多いA班の考え方と、税金を納めることのできないF班の生徒の考え方を対比させるとよい。)
- 5 ある程度の意見が出たら、考え方を整理し、解説を聞く。

この場合、F班の足りない100万円を一番収入の多いA班が全額補填することや、100万円を、支払が可能なA班からD班で割り、25万円ずつ補填するなどの方法が考えられますね。また、全体の所得に占める税金の割合が30%であるため各班の異なる所得に30%を掛ける (定率) という考え方もありますね。「公平」の考え方だとどのやり方が適しているのでしょうか。

- 6 ワーク3を使って更に考え、所得が多いほど税率を高くする累進税率の考え方もあることに気付く。また、ワーク4を使って、累進課税制度 (税の所得再分配機能) について考える。
- 7 最後に、ワーク5を行い、再度、〇〇市の税金の集め方について考える (ワーク5は、ワーク3と収入が同じでありながら、生活をするのに最低200万円は必要であるという新たな条件が出ている。)
※現実社会と照らし合わせて説明すると更に学習が深まる (例: 年収200万円以下の社員が1,000万人以上いることや、生活保護の受給者が200万人以上いるなど。)
- 8 できるだけ公平になるよう複数の税の種類が組み合わされていること、公平な税制を考えるには、自分だけでなく他人も幸せになれる社会、負担と受益にみんなが納得できるような公平さが求められることの説明を聞き、残りの時間で授業の感想を書く (公平のキーワードを必ず入れさせるよう工夫)。

○評価規準

- ・グループワークやクラスディスカッションに主体的に参画しようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・公平な税制や「公平」について考えたことをまとめて発表できている。また、ワークシートに理解した内容をまとめ、文章で表現できている。(思考・判断・表現)
- ・自己の主張だけでなく、他者の意見に耳を傾けることができる。また、それについて意見を述べたり、自分の意見を見直したりできている。(思考・判断・表現)

(ワークシート) 「公平な税制を考えてみよう」

※Word版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。

(ワーク1) このクラスを〇〇市と名付けます。皆さんはその市の市民です。小さな市で市民は6人。市の真ん中を市の管理する川が流れています。渡し船しかなく、学校や職場へ通うにしても大変不便でした。さて、市民全員の要望もあり、今度、市では新たに橋を架けることになりました。橋はどの市民も等しく生活に使っています。その橋を造るのには1,800万円がかかることが分かりました。さて、どのようにこのお金を集めたいのでしょうか。

(ワーク2) 全ての市民の収入は1,000万円です。なるべく公平に集めたいと思います。いくらずつ集めればよいのでしょうか。

	収入(所得)/年	メモ欄	税金	残り
A(班)	1,000万円		300万円	700万円
B(班)	1,000万円		300万円	700万円
C(班)	1,000万円		300万円	700万円
D(班)	1,000万円		300万円	700万円
E(班)	1,000万円		300万円	700万円
F(班)	1,000万円		300万円	700万円
合計	6,000万円		1,800万円	

例えの数値

(ワーク3) 市民の収入が異なる場合は、どうでしょうか。なるべく「公平に集めたい」と思います。いくらずつ集めればよいのでしょうか。各グループで話し合ってみよう。

	収入(所得)/年	メモ欄	税金	残り
A(班)	2,500万円		900万円	1,600万円
B(班)	1,500万円		450万円	1,050万円
C(班)	1,000万円	※累進税率による税額の計算例 ・500万円×20%=100万円 ・(1,000万円-500万円)×30%=150万円 ・100万円+150万円=250万円	250万円	750万円
D(班)	500万円		100万円	400万円
E(班)	300万円		60万円	240万円
F(班)	200万円		40万円	160万円
合計	6,000万円		1,800万円	

※生徒が考えた仮定の累進税率	
所得金額(万円)	税率(%)
~500	20
~1,000	30
~1,500	40
1,500以上	45

なぜ、そのように考えたのか、理由を書いてみよう。

(ワーク4) 日本の所得税では、所得が多い人が多くの税金を負担する累進課税制度というやり方がとられています。これについて、どう思いますか。

(ワーク5) 同じ質問をします。なるべく公平に集めるためには、いくらずつ集めればよいのでしょうか。ただし、この〇〇市で健康で文化的に生活していくためには、最低一人当たり年200万円が必要となるとします。今度はクラス全員で話し合い、決定をしてください。

	収入(所得)/年	メモ欄	税金	残り(≧200万円)
A(班)	2,500万円			
B(班)	1,500万円			
C(班)	1,000万円			
D(班)	500万円			
E(班)	300万円			
F(班)	200万円			
合計	6,000万円		1,800万円	

今日の授業の感想を書こう

【高等学校】事例3「主権者として、納税の在り方を考える」

ポイント➤ 知識習得と他者との対話を通して、納税に関する考えを深めていく授業例

○実施学年、教科など

・公民科>現代社会>(2)現代社会と人間としての在り方生き方>エ現代の経済社会と経済活動の在り方>政府の役割と財政・租税

(平成30年3月告示の学習指導要領においての実施案)

・公民科>公共>B自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

○単元目標

- ・市場経済における政府の役割と租税を中心とした公的負担の意義と必要性について理解する。
- ・与えられた情報を適切に読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- ・望ましい税制度の実現に向け、協働して考察したり、構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

○評価規準

[関心・意欲・態度]

- ・市場経済における政府の役割と租税を中心とした公的負担の意義と必要性について理解しようとしている。
- ・望ましい税制度の実現に向け、与えられた情報をもとに、協働して解決しようとしている。

[思考・判断・表現]

- ・与えられた情報をもとに自らの考えを表現している。

[資料活用の技能]

- ・与えられた情報を適切に読み取り、まとめている。

[知識・理解]

- ・市場経済における政府の役割と租税を中心とした公的負担の意義と必要性について理解している。

○指導計画（3時間・各50分）

第1時 財政の仕組みと税金（一斉授業）

第2時 財政・経済に関する我が国の現状と課題（外部講師による出前講座活用等）

※参考までに授業の展開を掲載

第3時 他者との情報共有・対話を通して、自らの意見を深める 〈本時〉

○本時の学習（3／3時間）

1 本時の目標

- ・前時において習得した知識を他者に説明し、共有した上で、消費税率の在り方について協議し、自らの考えを深める。

2 本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点
前時 (参考)	<p>個人で課題に対する答えを考える</p> <p>《授業前後の考えを比較するため、授業を受ける以前の考えを記入し視覚化する》</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークシートに、今後の消費税率（「消費税の税率について考えよう」）について自分の考えに最も近いものを選択し、理由を記入する。 <p>【選択肢の例】</p> <p>1：現状のままでよい 2：今すぐ上げる 3：3年後に上げる 4：今すぐ下げる 5：3年後に下げる 6：その他</p> <p>※ 上記の選択肢は、現状の消費税率に合わせて具体的に設定することも可。また、選択肢を設定せずに自由記述のみにすることも可。</p> <p>【対応するワークシート】①</p>	<ul style="list-style-type: none">・事前と事後の意見の変化を見たいため、自信がなくても何らか記入するよう促す。どうしても難しい場合は空欄でも可。

前時
(参考)

グループで学習・意見交換

《知識を基に考えを深められるように、講義の内容を理解する》

・3つのグループに分かれ、それぞれA少子高齢化(県少子政策課)、B財政状況(税務署)、C先端産業(県先端産業課)に関する講義を聞き、各テーマに関する現状や課題を理解する。

・必要に応じて、ワークシートにメモを取る。

※()内は出張出前講座を活用した際の依頼先。講義のテーマは一例であり、習得させたい知識や多角的に考えられる内容を検討する。

※学習内容に関係する専門家や関係諸機関などとの連携・協働を図り、授業の充実を図る。

※話題にする内容が絞られるため(例では3つ)、偏りがある部分に関しては、まとめの部分で補足したり、他単元で関連がある際に説明したりする工夫が必要となる。

・講義終了後、同じグループの生徒同士で内容を整理、疑問を解消し、他者に説明できるよう準備をする。

・同じグループの生徒同士で、当初の問いである消費税率について意見交換する。

【対応するワークシート】②-1~②-3

グループで各講義内容を共有する

《自分が聞いた講義内容を分かりやすく説明する/他者が聞いた講義内容を理解する》

・前時の講義内容が異なる生徒の組合せとなるようグループを組み、それぞれが聞いた話を共有する。

【対応するワークシート】③-1

・各講義内容(A~C)のポイント

A 女性の社会進出、晩婚化、子育てに関わる費用の心配等を背景に、出生数が年々減っている。働き世代が減ることにより、集まる税金も減り、これまで働いてきた世代を支える体制が不安定となる。

B 財政とは、政府が家計や企業から資金を調達し、公共目的のために様々なサービスを提供する経済活動のこと。現状、歳入が租税で賄えず国債を発行している一方で歳出が増えている。

C 今後成長が見込まれる先端産業を集中的に支援することで、経済発展を目指すことができ、非常に有意義である。

・次の時間では、別のグループの生徒に内容を説明するため、同じグループの生徒同士で分からないところがないよう話し合いをするよう促す。

・理解内容に大きく誤りがある場合は、正しく理解している生徒に説明させるなどして、正しく理解が進むよう支援する。

・全ての内容について共有できるよう、時間配分が重要となるため、経過時間や残り時間を適宜伝える。

・説明に困っている生徒には、説明するポイントを伝える。

・内容理解に大きな誤りがある場合は、資料の読み取るポイントを指示したり、正しい内容を説明したりする。

本時
(展開)

グループで課題に対する答えを協議する

《グループ内で自分の考えを発信する/多数決に頼らず、協議によってグループの意見を決定する/意見を根拠付ける理由を考える》

・当初の問いである消費税率について、グループで1つの意見にまとめ、理由を整理する。

・同じ意見を持つグループ同士が更に集まり、説得力が高まるように理由を検討する。

・グループの代表者から全体に対して意見と理由を発表してもらう。

・各生徒は、発表された意見をワークシートに書き取る。

・一部生徒の意見に安易に偏ることがないように、グループの生徒全体が納得するような話し合いを促す。

・異なる意見を持つグループに対して、自分たちの意見が説得力を持って伝わるよう、理由も検討させる。

・異なる意見と理由を1つ以上発表できるようにする。

本時 (展開)	※上記のとおり、「話す」、「聞く」、「考える」といった一連の活動を繰り返すことにより、課題の解決に向けて多面的・多角的に考察する。 【対応するワークシート】③-2、④-1	・必要に応じて、発表者の言葉を繰り返したり、質問をしたりすることで全体が発表内容について理解できるように工夫する。
本時 (まとめ)	個人で課題に対する答えをまとめる ・一連の講義・協議・意見共有を通して考えた消費税率に関する自分の意見と理由をワークシートに記述する。 【対応するワークシート】④-2	・意見と理由が授業を反映したものになるよう、丁寧に記入するよう指示する。

※ ワークシートの構成については、各学校の生徒の実態に合わせて作成することが望ましいが、①当初の問いに対する意見・理由、②-1～②-3自分が聞く講義のメモ欄、③-1他者が聞く講義のメモ欄、③-2グループでの問いに対する意見・理由、④-1意見が異なるグループの問いに対する意見・理由のメモ欄、④-2最終的な自分の意見・理由を記述する欄があるとよい。

授業では、①、③-2、④-1については記入時間を確保し、その他のメモ欄については、メモを取ることを重視するより、講義内容を理解させることや他者との対話を充実させることに配慮する。

〇まとめ

1 生徒の意識の変化

消費税増税に関しては、自分たちの生活に影響があることなので、関心を持っている生徒が多くを占めていたが、そのことに関する意見が買い物をする際の出費につながるなど、税の意義や役割を十分に理解していないと思われるものが多かった。しかし、今回の授業を通して、日本の財政・経済の状況及び課題解決を目指すための消費税率の在り方を考えられるようになった生徒が増えた。このように、日本の財政に関わる現状と課題を理解し、日本のこれからの財政の在り方を主体的に考えることは、主権者として必要である。

また、異なる講義を聞いた生徒に内容を説明したり、生徒同士が対話によって考えを深めるなどの授業を通して、生徒は自分が分かったことや考えたことを他者に伝えることに自信を持てたり、多面的・多角的に考えたりすることができた。

2 実施に当たって

授業の展開としては、全体の問いである「消費税率について」を考える材料として、税務署、都道府県及び市区町村の関係団体並びに民間団体が実施する出前講座、事業者などの納税者の立場からの講義の実施などが考えられるが、各学校における可能な選択肢の中から、既習事項との兼ね合いや生徒が多角的に考えるための内容を選ぶことができるとよい。また、出前講座を活用せずに、複数の視点による情報資料を教員が準備・作成し、グループごとに読み込むことで出前講座に代えて同様の授業を実施することも可能である。

(ワークシート) 「消費税の税率について考えよう」

※Word版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。

【個人で課題に対する答えを考える】

① 消費税の税率について、次の1～6のうち、自分の考えに最も近いものを選び、その理由を書きましょう。

消費税率	1 現状のままでよい、2 今すぐ上げる、3 3年後に上げる、4 今すぐ下げる 5 3年後に下げる、6 その他 ()
理由	

【グループで学習・意見交換】

②-1 講師の方の話をよく聞き、大切なことが分かるようにメモを取りましょう。

後で他のグループの人にも説明できるように、しっかりと聞いてメモを取りましょう。

限られた時間、話を聞きながらであるので、自分が分かれば、綺麗にメモを取る必要はありません。

--

②-2 聞いた話を基にグループで話し合い、日本が抱える課題を考えましょう。

--

②-3 グループで話し合い、日本が抱える課題を解決するために必要なことを考えましょう。

--

ここで話し合った内容を次のグループで報告します。次のグループでは同じ話を聞いた人はいません。
報告しやすいよう、次ページのメモ欄（③-1の自分のグループ名）に整理しておきましょう。

【グループで各講義を共有】

③-1 聞いた話と元のグループでの話し合いの内容を伝えあい、それぞれメモを取りましょう。

分野	内容	日本が抱える課題	課題解決に向けて
A 少子政策について			
B 日本の財政状況と 租税について			
C 先端産業創造プロジ ェクトについて			

時間をかけたいのは、③-2です。

情報を伝え合ったら、グループで一つの意見になるよう話し合いましょう。

【グループで課題に対する答えを協議する】

③-2 グループの考えに最も近いものを選び、その理由をグループで考えて書きましょう。

消費税率	1 現状のままでよい、2 今すぐ上げる、3 3年後に上げる、4 今すぐ下げる 5 3年後に下げる、6 その他 ()
理由	

④-1 発表された他のグループの選択の理由を聞き、メモを取りましょう。

選択肢	理由
1 現状のままでよい	
2 今すぐ上げる	
3 3年後に上げる	
4 今すぐ下げる	
5 3年後に下げる	
6 その他	

様々な情報を基に考えをまとめ、他の人の意見も聞いてきましたが、今日の内容を踏まえた上で、改めて自分の考えをまとめましょう。

理由を書く際は、自分が選択したものの必要性を相手に納得してもらえるようにしましょう。

【個人で課題に対する答えをまとめる】

④-2 自分の考えに最も近いものを選び、その理由を書きましょう。

消費税率	1 現状のままでよい、2 今すぐ上げる、3 3年後に上げる、4 今すぐ下げる 5 3年後に下げる、6 その他 ()
理由	

【高等学校】 紹介 「税に関する高校生の作文」への応募とリンクした3つの指導方法

ポイント➤ 作文を書く前の3つの学習パターンを紹介

【紹介1】 外部講師による租税教室と連携した指導方法

○実施学年、教科など

- ・ 公民>現代社会又は政治・経済



○単元の目標

- ・ 租税制度に関する現状と課題について関心を高める。
- ・ 学習した内容や税に対する思いについて、思考内容を自分の言葉で文章にすることを通して、これからの税の在り方を考える。

○単元の特徴

- ・ 本事例は、外部講師の協力を得た授業と「税に関する高校生の作文」をリンクさせたものである。社会に出る前の高校生を対象として、全2時間を設定し、外部講師による租税教室を行った後、授業で学んだ内容や税について日常考えていることなどを踏まえ、税に関する生徒の考えを文章の形でまとめ、「税に関する高校生の作文」として応募した。
- ・ 外部講師の講義を一方的に聞くだけではなく、学習した内容や思考内容を自分の言葉で文章にする機会を確保することで、思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動の充実に資する取組となっていることが特徴である。

○指導計画（2時間・各1時間）

第1時 租税教室<本時>

第2時 前時で学んだ内容や日頃の税に対する思いなどを踏まえ、税に関する生徒の考えを文章の形でまとめる。出来上がったものは、「税に関する高校生の作文」として応募する。

○本時の学習（1/2時間）

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準
導入	・ 税とは何かを考える。	・ 国民生活に不可欠な公共サービスや公共施設などに必要な経費を国民が広く公平に負担していることについて理解させる。	・ 税や財政に関する現状と課題について関心が高まり、積極的に授業に参加し、前向きに学ぼうとする意欲が見られる。（関心・意欲・態度）
展開	・ 税の種類と仕組みを知る。 ・ 財政の現状を知る。 ・ 今後の課題を考える。	・ 税の種類や分類及び直接税、間接税の代表例である所得税、消費税等の基本的な仕組みを説明する。 ・ 本年度予算を基に国や県の財政の現状を説明する。 ・ 公債金残高の増加や少子高齢化など、国や県の財政の課題について触れ、これからの税の在り方を考えさせる。	
まとめ	・ 本時のまとめ	・ 本時の内容を振り返り、次時において税に関する各自の考えをまとめる際の準備をさせる。	

【紹介2】 教科書以外の補助教材を用いた指導方法

○単元の特徴

- ・ 事前指導として補助教材を用いて税の授業を実施した後、長期休業中の課題として税の作文に取り組む。

○教材・資料

- ・ 国税庁ホームページ「税の学習コーナー」の租税教育用教材（高校生用教材及び講師用マニュアル）
- ・ 「税に関する高校生の作文」 募集用資料（リーフレット） など

【紹介3】 ワークシートに取り組ませた上で、税の作文を作成する指導方法

○単元の特徴

- ・学年全体で長期休業中の課題として税の作文に取り組む。

○教材・資料

- ・ワークシート ※Word 版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。

税を考えるための論点 ～「税に関する作文」を作成するために～

○年○組○番 名前

論点プリントに自分の考えや調べたことをまとめる。(夏休みの宿題の一つ)



○年○月○日 () の登校日
・これを基に「税に関する作文」(1,200字)を書く。
・論点プリントと書いた作文を提出する。

☆税の意義・役割を考えよう。

税は、私たちの生活を支える、なくてはならないもの。私たちの暮らしを支える税は、どのように使われているのでしょうか？また、税は、社会の中でどのような役割を担っているのでしょうか？

(5行程度)

☆税の使いみちを考えよう。

納税は国民の義務。予算は、国会で私たちの代表によって決められます。税を納める私たちは、当然、その使いみちに関心を持って監視していく必要があります。税の使いみちに関心を持とう！

例えば、社会保障関係費について・・・

少子高齢化社会の到来による増大・・・社会保障給付費はこの20年でおよそ倍に増えている(令和3年度予算ベースで129.6兆円)。今後も高齢化の進展に伴ってさらなる増加が見込まれる。

このお金はどこから来るか？→社会保障の財源は、社会保険料収入だけでは不足するため、多額の公費が使われている。

- ・社会保障のための公費負担は、国の歳出の大きな部分を占めている(令和3年度予算：35.8兆円、歳出の33.6%)。
- ・国の歳入のうち、税収で賄われているのは6割程度で、約4割は将来世代の負担となる借金(公債金収入)に依存している。

∴社会保障関係費の支出が大きくなるのは当然のことなのでしょうか？

税の使いみちで、皆さんが一番気になるものは何ですか？教科書のグラフも参考にしながら、私たちが納める税は、どのように使われているのか考えてみましょう。また、今後、その歳出額はどのようにになると予想されますか？増える？減る？その理由は？併せて考えてみましょう。

(7行程度)

☆日本の税を取り巻く問題点とは何か。その解決策について考えてみよう。

例えば、
・財政赤字の問題
・少子高齢化の問題
・社会保障費が増加する問題
・受益と負担の在り方の問題
など
私たちが納める税を取り巻く問題は様々あります。皆さんは何が一番問題だと思いますか。また、その問題を解決する方法はあるのでしょうか。考えてみましょう。

(10行程度)

★その他(○年度 一般会計歳出)

(略)

左の図は、○年度の歳出です。歳出総額は○兆円に上ります。
どのくらいの金額が何に使われるのでしょうか？空欄を埋めてみましょう。

作文作成のポイント: 自分の具体的な体験や学んだことを盛り込んで書こう!

【大学(教員養成大学)】事例「教育学部における租税教育研究」

ポイント➤ 大学講師、学生、税の専門家(税務職員や税理士)が協働して税の授業づくりを行う事例

○実施学年、教科など

- ・教育学部 社会専攻の学生(2年生～4年生)

○目的

- ・大学の教育学部において、大学講師、学生、税の専門家(税務職員や税理士)が協働して、「租税教育」をテーマとした社会科教育研究に取り組むことにより、学校教育における中長期的な租税教育の充実を図る(日本税理士会連合会による寄附講座)。

○目標

- 1 教育学部生の意識啓発及び社会科授業実践力の養成
近い将来、租税教育を担う教員となる教育学部生が、税をテーマとして、税の専門家を交えて社会科教育研究に取り組むことにより、租税教育の重要性を認識するとともに、児童・生徒の「社会を見る目を養うこと」を目的とした授業づくりに必要な基礎的知識(税の制度、憲法の権利・義務、民主主義等)を理解する。また、社会科教育実践の可能性を探り、教材研究、授業デザインを柔軟かつ創造的に開発する力を身に付ける。
- 2 租税教育研究の充実
社会科研究を専門とする大学講師が、税をテーマとした研究を進めることにより、租税教育の社会科教育における位置付けの確立、具体的な指導方法(単元目標、学習内容、学習活動等の構成)の研究の充実を図る。また、学校教育現場において、教育学部生が租税教室の講師を行うことにより、当該研究成果を学校教師に発信する。

○特徴

- ・「税の授業づくり」をテーマに、税の専門家と協働して授業づくりを行う。
- ・前半は、学生の税についての知識や理解を深める学習を行い、後半は、授業の構想・指導案作成・教材づくり・模擬授業と振り返り等を行う。
- ・なお、税の専門家は、講座に参加し、税についての講義や教科研究に必要な資料の提供等、授業づくりのサポートとしての役割を果たす。

○授業計画(前期15回)

(1月) 講師 授業計画(シラバス)の策定

(4月～7月)

1回 オリエンテーション

- ・税の授業研究の目標及び学習内容(活動)を確認。租税教育の重要性を理解する。
- ・専門家と協働し、早い段階から実習を行う授業が求められている理由を知る。
- ・税の専門家の自己紹介、事前アンケート等。

2回 近代国家の成立と税の考え方(ホブズ、アダム・スミス、ヘーゲル、ワーグナー)

3回 税の専門家による講義「税の意義・役割や仕組み、税の在り方について考えよう」
「公平」な税制度とは?(世代間の公平、地域間の公平)

4回 税の意義・役割、社会的機能(炭素税・環境税:政策誘導など)について考えよう。

5回 「税の授業づくり」①授業の目標設定(税の専門家による講義を含む。)

6～7回 小学校・中学校授業参観

- (目的)・教師の発問と児童・生徒の思考との関係について考える。・授業構造について考える。
- ・授業中の配慮の必要性について考える。
- ・児童・生徒の実態をつかみ「税の授業づくり」への準備をするなど。

8回 「税の授業づくり」②授業の構想・指導案作成<本時>

9～10回 「税の授業づくり」③～④教材作成

11回 模擬授業と振り返り

12～14回 小学校・中学校での税の授業実施

15回 まとめ、最終アンケート

参考1: 租税教育の体系図(発達の段階と領域、学習内容)

発達の段階		小学校(社会)※中学年	小学校(社会)※高学年	中学校(公民的分野)	高等学校(現代社会)	高等学校(政治・経済)
領域	キーワード	学習内容				
社会と国民生活を支える 税の意義・役割 (税の必要性)	・みんなの願い ・生活の安定と向上	健康で良好、安全な生活を守る諸活動、公共施設	わたしたちの暮らしと政治(国・地方公共団体)の働き	市場の働きにゆだねることが難しい諸問題への国・地方公共団体の役割	政府の役割	国民経済における政府の役割
	・公共サービスの財源 ・社会の会費 ・税の使いみち	諸活動のために関係機関や地域の人々が協力していること	政治の働きの費用は税によってまかなわれていること	公共サービスの財源をまかなう税の役割	財源調達など税の機能、税の意義と必要性	財源調達など税の機能、生活を支える税の意義・役割
		地域社会の一員としての自覚をもつこと	身近な生活と税のかかわり	社会の一員(税の負担者)としての自覚をもつこと	納税者として税の使途に関心をもつこと	納税者として税の使途に関心をもつこと
	・国民主権 ・納税の義務	きまりを守ることの大切さ	憲法に納税の義務があること	憲法に定められた権利と納税の義務、納税の義務を果たすことの大切さ	納税の義務を果たすことの意義	納税の義務を果たすことの意義
税の大切なきまりや考え方	・税の公平な分担		税はみんなで分担して納めていること	税の仕組み、税の種類・分類	公共サービスの受益と負担、公平な税の考え方	公平な税の考え方、税の基本的な仕組み
よりよい社会と税	・持続可能な社会			財源の課題(財源の確保と配分、社会保障費)	(個人と社会の関係、世代間の公平など)	税・財政の課題(財源の調達と配分)
社会人と税	・申告納税制度 ・税に関する仕事			自ら正しい申告・納税をすること	申告納税制度、税に関する仕事	申告納税制度、税に関する仕事
学習指導要領解説の税に関わる主な記述(抜粋)		<p>・地域の人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るために関係機関と地域の人々が互いに協力していることや、関係機関に従事している人々や地域の人々が様々な工夫や努力をしていること、それらの諸活動は地域の人々の健康で安全な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。</p> <p>・身近な地域や市で生活している人々が利用する主な公共施設(例えば、市・区役所や町・村役場をはじめ、学校、公園、公民館、図書館、児童館、体育館、美術館、博物館、郷土資料館、文化会館、消防署、警察署、裁判所、検察庁)などを取り上げ、観察、調査したり地図などを活用したりして、施設の名称と位置、働きなどを調べ、白地図に書き表す。</p> <p>・法や自分たちが決めるときまりを守ることが地域の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上を図る上で大切であることに気付くようにする必要がある。</p> <p>・政治の働きと税金の使われ方の関係を取り上げ、国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などに必要な費用は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることなどを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにする。</p> <p>・国民は権利を行使する一方で、勤労や納税の義務などを果たす必要があることなどを理解できるようにする。</p> <p>・国民の義務は、納税の義務を取り上げ、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにする。</p> <p>・国や地方公共団体に任せ方が効率的であったり、公正であったり、市場の働きだけに任せたままでは解決が難しくなったりする問題について具体的に考えさせる。</p> <p>・統計資料などを有効に活用しながら租税の大まかな仕組みやその特徴に触れ、財政を支える租税の意義や税制度の在り方について考えさせる。</p> <p>・国民が納税の義務を果たすことの大切さを理解させるとともに、税の負担者として租税の使いみちなどについて理解と関心を深めさせるなど納税者としての自覚を養う。</p> <p>・財政の歳入・歳出における内容を具体的に取り上げ、財政支出に対する要望は広範多岐にわたり、そのため財源の確保が必要であるが、財源は無限にあるわけではないことに気付かせ、財源の配分について、効率や公正の考え方に基ついて考えさせる。</p> <p>・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか、税の負担者として自分の将来とかがかわらせて考えさせる。</p> <p>・市場経済の中での政府の役割は、国民生活の向上と福祉の充実のために、民間部門では十分には供給することの難しい財やサービスを提供する役割があること、また、所得再分配や、近年の経済の動向を踏まえて考察させるとともに、租税を中心とした公的負担の意義と必要性についての理解を深めさせる。</p> <p>・その際、納税が国民の義務であることと理解させるとともに、税金がどのように使われどのようなサービスを受けているかなどについて納税者としての立場から関心をもつことが大切であることを理解させる。</p> <p>・持続可能な社会の形成に参画するという観点から、現代社会に対する課題について個人と社会の関係、現役世代と将来世代の関係などに着目させながら探究し、現代社会に対する理解を深めさせる。</p> <p>・現代の政府は、家計や企業の経済活動にゆだねることの困難な部門を引き受けていること、資源の配分、景気変動の調整、所得や資産分配の平等を是正するなどの役割を果たしていることを理解させる。</p> <p>・財政(政府による経済)活動を行うには原資が必要であることに気付かせ、租税や国債など財源の調達方法やそれぞれの問題点を理解させるとともに、限られた財源をいかに配分すれば国民福祉が向上するかを考察させ、適切な財政運営が重要な課題であることに気付かせる。</p> <p>・税制度の基本を理解させるとともに、国民生活における租税の意義と役割、公平で適切な負担の在り方について考察させる。</p> <p>・その際、国民が納税の義務を果たすとともに、納税者としてその使途について関心をもつことが大切であることを理解させる。</p>				

○参考2: 小学校の学習内容と教材化の視点の例

学習内容 (体系図の 学習内容と 一致)	学習活動			対 応 事 例 ()は 関連
	素材	つかませ方	教材・資料	
公共施設	・地図記号	・「税務署」で検索し、地図記号がそろばんの玉の形をしていることに気付かせ、税務署が税金というお金を集める(計算する)公共施設であることを理解させる。	・国土地理院HP、地図	
(以下、高学年)				
私たちの暮らしと政治の働き	・災害の写真	・神戸市のオープンデータ「阪神・淡路大震災『1・17の記録』」を活用し、災害からの復興の過程(取組)を理解させる。	・神戸市の写真	(小-2)
政治の働きの費用は税によって賄われていること	・1億円のレプリカ(みほん)	・量や重さを体感させ、集める税や予算の大きさなどに実感を持たせる(1億円の重さ10kgは、例えば、スーパーにあるお米10kgや2Lペットボトル5本分と同じ位の重さであるなど、身近なものなどで例える。)	・歳入、歳出の円グラフ	・小-1
身近な生活と税の関わり	・児童の一日の生活 ・税金の使いみち ・教育費 ・外国の税 ・税の種類	・一日の生活の例を通して身近な生活と税の関わりに気付かせ、安全、安心で豊かな生活など、みんなの願いが地方公共団体や国の働きによって実現されていること、その働きの費用は税で賄われていることを理解させる。 ・みんなが納めた税金の使いみちを知ることを通して税金がどのように役立っているのかを理解させる。また、税の使いみちは選挙で選ばれた国民の代表者が国会で決めており、国民一人一人が政治や選挙、税の使いみちなどに関心を持つことの大切さを理解させる。 ・公立学校に通う児童一人当たりの月(年)間教育費を知り自分に使われている税金の多さに気付かせる。 ・いわゆるポテトチップス税やソーダ税など外国の身近で分かりやすい税の種類を紹介し、税に対する関心を高める。 ・クイズにより種類の多さ(約50種類)に気付かせ、みんなが様々な形で税を分担していることに気付かせる。	・副教材、イラスト ・歳出の円グラフ ・国税庁HP ・ネット ・副教材、財務省HP	(中-2) ・小-1 ・小-1
憲法に納税の義務があること	・税のない生活	・DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」などを視聴し、税がなかったら(納税の義務を果たさなかったら)どのような生活になってしまうのかを考え、地方公共団体や国の働き、その費用を賄う税の必要性を理解させる。	・国税庁HP(配信)、DVD	・小-1
税はみんなので分担して納めていること	・レシートの消費税 ・消費税の行方	・レシートの消費税を確認し、児童も消費税を払っていることに気付かせる。 ・消費税の行方を調べることにより(〇〇の購入→お店→税務署(国)→日本銀行→できれば社会保障まで)、税が社会を支えていることを理解させる。	・レシート ・副教材、財務省HP	

○参考3: 中学校の学習内容と教材化の視点の例

学習内容 (体系図の 学習内容と 一致)	学習活動			対応 事例 ()は 関連
	素材	つかませ方	教材・資料	
市場の働 きに委ね ることが 難しい諸 問題への 国・地方 公共団体 の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理を自宅でする場合（捨てる場所等の問題）と地方公共団体がまとめてする場合（リサイクル、清掃工場）の費用負担（令和元年度国民一人当たりのごみ処理経費約19千円）、環境（健康）への影響の違いなどを考えさせ、環境を守る政治の働きとそれを支える税の役割を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省 HP、市区町村 HP 	
公共サー ビスの財 源を賄う 税の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙の争点 ・教育費 ・外国の消防サービス ・海賊 ・歳出又は税がなかったら ・歴史上の人物の言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙の争点は、税に関わるものや税を必要とするものが多いことに気付かせ、政治の働きの費用を賄う税の意義や役割、必要性を理解させる。 ・公立学校に通う生徒一人当たりの月（年）間教育費の金額の多さに気付かせ、税が役立っていることを理解させる。 ・費用を払わず消火がされなかった米国テネシー州サウスフルトン市の消防の例を取り上げ、日本の公共サービスの財源を賄う税の役割や納税の義務などを考えさせる。 ・人気漫画の題材で生徒のイメージしやすい海賊を取り上げ、日本の税金が政府開発援助（ODA）として海賊対策に使われていることを紹介し、税の用途への関心を高める。 ・社会保障、公共事業、教育、防衛、地方公共団体の財政調整などの歳出項目や、消費税や所得税などの歳入項目を一つ取り上げ、その歳出又は財源がなかったらどのような社会になるかを考える。 ・「税の学習コーナー（応用編）」の税のエピソード・日本編「福澤諭吉と税」（「学問のすすめ」の中で、税は政府と国民との約束であると述べていること）を紹介し、税への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事 ・国税庁 HP ・ネット、ワークシート ・外務省 HP 「ODA とは？」他 ・歳入、歳出の円グラフ ・国税庁 HP、お札 	<ul style="list-style-type: none"> ・中-1 ・中-1 ・中-2
社会の一 員（税の 負担者） としての 自覚を持 つこと	<ul style="list-style-type: none"> ・米国独立戦争 ・生徒の一日の生活 ・税金の使いみち ・レシートの消費税 ・消費税の行方 	<ul style="list-style-type: none"> ・「税の学習コーナー（応用編）」の税のエピソード・アメリカ編「アメリカ人の税に対する思い」（税をきっかけとしてアメリカ独立戦争が起こったため、アメリカ人は税の使いみちなどに強い関心を持っている）を紹介し、納税者としての意識を高める。 ・（小学校を参照） ・（小学校を参照） ・（小学校を参照） ・（小学校を参照） 	<ul style="list-style-type: none"> ・国税庁 HP ・副教材、イラスト ・歳出の円グラフ ・レシート ・副教材 	<ul style="list-style-type: none"> ・中-2
憲法に定 められた 権利と納 税の義務、 納税の義 務を果た すことの 大切さ	<ul style="list-style-type: none"> ・税のない生活 ・税のない国 	<ul style="list-style-type: none"> ・（小学校を参照。※中学生向け DVD は「ご案内します アナザーワールドへ」） ・資源が豊富で税がなかったが、その資源が枯渇したことにより経済が破綻状態となった国（ナウル共和国）を例に取り上げ、日本の憲法の三大義務がなかったら（納税の義務が果たされなかったら）、どのような社会になってしまうのか、社会や国の在り方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国税庁 HP（配信）、DVD ・ネット、外務省 HP 	<ul style="list-style-type: none"> ・中-1

<p>税の仕組み、税の種類・分類</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会社員の一日子 ・税率の仕組み ・サッカーのフリーキック ・ノーベル賞、オリンピック・パラリンピック 	<ul style="list-style-type: none"> ・会社員の一日子の生活の例を通して、生活と税との関わりに気付かせ、税の種類を理解させる。＜家＞住民税（住むこと）、固定資産税→＜会社＞法人税、所得税（給料）→＜外出＞自動車税、ガソリン税（揮発油税）、消費税（買い物）、相続税（葬儀場）→＜帰宅＞酒税、たばこ税など ・所得税や相続税などの累進税率や、消費税・個人住民税などの比例税率（税率は一定だが、課税対象額が多くなれば税額が多くなる。令和4年4月現在）の仕組みを通して、垂直的・水平的な公平の考え方があることを理解させる。 ・直接税（税務署に税を納める人と税を負担する人が同じ。所得税など。）と間接税（税務署に税を納める人と税を負担する人が異なる。消費税など。）について、サッカーの直接フリーキック（他者を介さず直接シュート）と間接フリーキック（他者を介して間接的にシュート）に例えて分かりやすく理解させる。 ・身近な話題として、ノーベル賞や2020年東京オリンピック・パラリンピックを取り上げ、ノーベル賞の賞金や日本のメダリストの賞金（報奨金）には、法律により税がかからないことに気付かせ、税に対する関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国税庁 HP、副教材 ・クイズ等 	<ul style="list-style-type: none"> ・中-1 ・中-1・3 (高-2)
<p>財源の課題（財源の確保と配分、社会保障費）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障費と教育費 ・財政を家計に例える ・1万円札 ・借金時計 ・街づくりゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民医療費などの社会保障関係費と教育費（文教及び科学振興費）を比べ、社会保障関係費の大きさ（多さ）に気付かせる。 ・日本の財政を家計に例え、毎年赤字であることや借金の多さに気付かせ、財政の現状と問題を理解させる。 ・予算額や借金を1万円札で積み上げた場合の高さを富士山の高さなどと比べて大きさを実感させる（100万円が約1cm、1億円が約1m、1兆円が約10km。積み上げた1万円札を横にすれば〇〇駅～〇〇駅間の直線距離〇〇kmと同じなど）。 ・プロジェクター等で借金時計を見ることにより、財政赤字の現状を実感させ、財政に対する関心を高める。 ・「税の学習コーナー」の「みんなで話し合っって街を作ろう！」の街づくりゲームを通して、税金が使われている施設・使われていない施設、予算が足りなくなった場合の対応などを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務省 HP、副教材 ・財務省 HP ・副教材 ・ネット ・国税庁 HP 	<ul style="list-style-type: none"> （中-1） （小-1）
<p>自ら正しい申告・納税をすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諺「年貢の納め時」 	<ul style="list-style-type: none"> ・諺を紹介し、意味を教える（隠れて耕作していた田が見つかり、ごまかしていた年貢を納めなければならなくなったときなどを意味していたが（今でいう「脱税」）、悪事が見つかり刑に服さなければならないときなどに使われるようになった。）。 →諺から、昔、税金は年貢であったことに気付かせる。 →諺から、税金は「取られる」ではなく、「納める」という言い方をすることを理解させる。 →現在、所得税など国税では、自ら正しい申告と納税を行う申告納税制度が採られていることを理解させ、それを支える税に関する仕事や税務行政の取組を紹介する。 		

○参考4: 高等学校の学習内容と教材化の視点の例

学習内容 (体系図の 学習内容と 一致)	学習活動			対応 事例 ()は 関連
	素材	つかませ方	教材・資料	
(国民経済における) 政府の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出の内訳 ・歳出額の比較 ・憲法の前文 ・ネットの論争 ・国や地方公共団体の仕事 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出の内訳を調べ、国民の政府の財政支出に対する要望には、どのようなものがあるかを理解する。 ・歳出全体の金額を過去と比較し、全体として財政支出が増えていることを理解させる。また、どの歳出項目が増えているのかを調べ、その背景を考えさせる。 ・公共サービスの便益享受について、憲法前文に「(国政の)福利は国民がこれを享受する」とあることに気付かせる。 ・自宅の蜂の巣駆除を巡るネット上の論争を調べ、政府の役割や公共サービスの範囲、公共サービスの受益と税負担について考えさせる。 ・各省庁や地方自治体のHPを調べ、国や地方自治体の仕事や役割を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出の円グラフ ・財務省HP ・ネット、新聞記事 ・省庁や自治体HP 	<ul style="list-style-type: none"> ・高-1 ・高-1
財源調達など税の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・諺「絵に描いた餅」 ・寄附 ・生存権、格差 ・気球 ・米国のソーダ税など ・贈与税の非課税 	<ul style="list-style-type: none"> ・諺を紹介し、意味を教える。財源の裏付けがない歳出は、この諺の意味と同じであることに気付かせる。 ・個人の意思等に左右され、財源としては不安定な寄附と税を比べ、税が有する財源調達機能を理解させる。 ・生存権や格差から、所得再分配機能の意義を理解させる。 ・税を乗せた気球が、景気の良いときには税負担増加により下降し、悪いときには税負担減少により上昇する絵を用いて、税の景気を自動的に安定化する機能を理解させる。 ・日本の地球温暖化対策のための税や外国のいわゆるソーダ税(医療費抑制等)などを紹介し、税には政策目的を実現するための機能があることを理解させる。 ・若年世代への資産移転等を図るため、子や孫に対する教育資金の贈与税の非課税措置が設けられていることを紹介し、税の政策目的実現のための機能を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・副教材のイラスト ・環境省HP、ネット ・文部科学省HP、新聞記事 	<ul style="list-style-type: none"> ・高-1 ・高-2 ・高-1
税の意義と必要性 (生活を支える税の意義・役割)	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の人物の言葉 ・選挙の争点 	<ul style="list-style-type: none"> ・米国歳入庁の建物入口に刻まれているオリバー・ウェンデル・ホームズの言葉「租税は文明社会の対価」を紹介し、税の意義を考えさせる(「税の学習コーナー(応用編)」)。 ・福澤諭吉の言葉(中学校を参照) ・(中学校を参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国税庁HP ・国税庁HP ・新聞記事 	(中-1)
納税者として税の使途に関心を持つこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税 ・税金の使いみち ・教育費 ・米国独立戦争 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税は、自分が応援したい自治体に寄附をする制度であり、原則として寄附をした額のほぼ全額が所得税と住民税から軽減されるため、結果として寄附をした自治体に税金を納めたことと同じような効果が生まれる仕組みであることを知り、税の使いみちに対する関心を高める。 ・(小学校を参照) ・(中学校を参照) ・(中学校を参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務省HP、各自治体HP ・歳出の円グラフ ・副教材 ・国税庁HP 	(中-1)
納税の義務を果たすことの意義	<ul style="list-style-type: none"> ・最高裁判決(昭和60年3月27日・いわゆるサラリーマン税金訴訟判決) 	<ul style="list-style-type: none"> ・最高裁の判決要旨を紹介し、税の意義や納税の義務に対する理解を深めさせる(「およそ民主主義国家にあっては、国家の維持及び活動に必要な経費は、主権者たる国民が共同の費用として代表者を通じて定めるところにより自ら負担すべきものであり、我が国の憲法も、かかる見地の下に、国民がその総意を反映する租税立法に基づいて納税の義務を負うことを定め(30条)、新たに租税を課し又は現行の 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット 	・高-1

	<ul style="list-style-type: none"> ・アル・カポネ ・税のない国 	<p>租税を変更するには、法律又は法律の定める条件によること必要としている（84条）」。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国のギャングのアル・カポネが、最後は脱税により有罪判決を受け、刑務所に入れられた例を挙げ、税のルールを守ることの大切さを理解させる。 ・(中学校を参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット ・ネット 	
公共サービスの受益と負担 (個人と社会の関係、世代間の公平など)	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットの論争(再掲) ・会社員の納税額と教育費 	<ul style="list-style-type: none"> ・(30ページの「(国民経済における)政府の役割」欄を参照) ・給与収入700万円の会社員の所得税と個人住民税等の税負担額(約39万円・令和3年分以降の課税ベース)と、公立学校に通う高校生(全日制)一人当たりの年間教育費の国・地方公共団体の負担額(約102万円・令和元年度)とを比べ、受益と負担について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット、新聞記事 ・財務省HP、国税庁HP 	
公平な税の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・税率の仕組み ・マイナンバー制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・(中学校を参照) ・国民一人一人が番号を持つマイナンバー制度の趣旨(利便性の高い公平・公正な社会の実現)などを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国税庁HP 	<ul style="list-style-type: none"> ・高-2
税の基本的な仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・税の国際比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の税率などを比較した表を調べ、国によって税の仕組みや税率が異なることに気付かせる(各国の税制は、その国の歴史や文化、経済や社会の仕組み等を反映して構築)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務省HP、国税庁HP 	
税・財政の課題 (財源の調達と配分)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税の使いみち ・税収の推移 ・租税回避 ・借金時計 ・家計への例え 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に身近な消費税の使いみち(社会保障財源化)を調べ、社会保障と税の一体改革の背景や趣旨、内容などを理解させる。 ・主要な税目の税収の推移及びその背景を調べ、税制が経済社会と密接に関連していることを理解させる。 ・タックス・ヘイブンや多国籍企業への課税問題などに関する新聞記事を調べ、国際的な課税逃れ(租税回避)が問題となっていることに気付かせ、その背景(経済活動の国際化や各国の税制の違いなど)やその影響(租税回避による税収不足など)、対応策(租税条約に基づく情報交換の実施など)の現状などについて理解させる。 ・(中学校を参照) ・財政を家計に例える。(中学校を参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務省HP、国税庁HP ・財務省HP ・新聞記事、ネット、財務省HP ・ネット ・財務省HP 	
申告納税制度、税に関する仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイト代の確定申告 ・職業選択の自由(憲法第22条) ・諺 	<ul style="list-style-type: none"> ・「税の学習コーナー」(実践編又は高校生用教材の申告書作成編)等やパソコン等で申告書が作成できる「確定申告書等作成コーナー」を活用し、源泉徴収票の見方などを学び、所得税の確定申告書の作成を体験させる。 ・「何人も、公共の福祉に反しない限り、(居住、移転及び)職業選択の自由を有する」→多様な職業がある→プロ野球選手、プロゴルファー、モデル、医者、弁護士、小売業など事業を営む者は、自分で所得や税額を計算し、確定申告を行うことを理解させる。 ・「年貢の納め時」(中学校を参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国税庁HP 	<ul style="list-style-type: none"> (高-1)

○国税庁ホームページ「税の学習コーナー」の紹介

検索サイトで **税の学習コーナー** を入力 ⇒

- ・学習ページ(入門編、発展編、応用編、実践編)
- ・租税教育用教材(租税教育の事例集、ワークシートWord版、パワーポイント教材、講師用マニュアル)
- ・ビデオライブラリー
 - ・ゲーム・クイズ
- ・税の作文(受賞者発表など)
 - ・各国税局学習コーナーなどを掲載していますので、御活用ください。

